

2025年3月期 第2四半期（中間期） 決算説明資料

2024年11月7日
(2024年11月6日開示)



ダイワボウホールディングス株式会社

(証券コード：3107)

1. 2025年3月期 通期業績見通し _P3
 2. 2025年3月期 第2四半期決算（中間期） _P6
 3. 事業別 –ITインフラ流通事業 _P17
–産業機械事業 _P24
- 【参考資料】 _P28
- ▶前期（2024年3月期）決算の遡及修正について
 - ▶中期経営計画の概要（2025/3～2027/3）
 - ▶ITインフラ流通事業の「取扱高」について
 - ▶事業概要
 - ▶業績推移グラフ

2025年3月期 第2四半期（中間期）（2024年4月1日～2024年9月30日）

国内IT需要の拡大を捉え上期として最高売上高を更新
営業利益は3期連続の増益

業績

ITインフラ流通事業

- Windows更新需要が高まり、PC販売台数は前期比で大幅に増加
- iKAZUCHI(雷)はエンドユーザー契約件数の伸長等により、上期の目標取扱高を達成
- 企業・官公庁・文教向けいずれも好調に推移し増収増益

産業機械事業

- 工作機械部門での製品納入が順調に進み、事業全体での売上高は計画通り進捗

見通し

- 2025年3月期 通期売上高および営業利益の見通しを上方修正 →P 4

株主還元

- 配当金を20円増配し、1株あたり90円へ（中間45円、期末45円） →P14
- 自己株式取得の100億円は予定通り進捗（9月末時点取得価額：71.9億円）

| 2025年3月期 通期業績見通し

2025年3月期 通期業績予想



(百万円)	2024/3 (実績)		2025/3						増減額 ③-②	増減額 ③-前期	前期比	
			①期初予想 (5/9開示)		②修正予想 (8/2開示)		③修正予想 (11/6開示)					
売上高	967,760		975,000		1,012,350		1,123,500			+111,150	+155,739	+16.1%
ITインフラ流通	894,693		962,650		1,000,000		1,111,100			+111,100	+216,406	+24.2%
産業機械	13,213		12,350		12,350		12,400			+50	△813	△6.2%
繊維	59,210		—		—		—			—	△59,210	—
営業利益	30,963 3.2%		31,100 3.2%		31,100 3.1%		33,000 2.9%			+1,900	+2,036	+6.6%
ITインフラ流通	28,244 3.2%		30,200 3.1%		30,320 3.0%		32,320 2.9%			+2,000	+4,075	+14.4%
産業機械	1,032 7.8%		900 7.3%		780 6.3%		680 5.5%			△100	△352	△34.1%
繊維	1,580 2.7%		—		—		—			—	△1,580	—
経常利益	31,431 3.2%		31,500 3.2%		31,500 3.1%		33,400 3.0%			+1,900	+1,968	+6.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,283 0.4%		21,800 2.2%		21,800 2.2%		23,000 2.0%			+1,200	+18,716	+437.0%

2025年3月期 下期業績予想

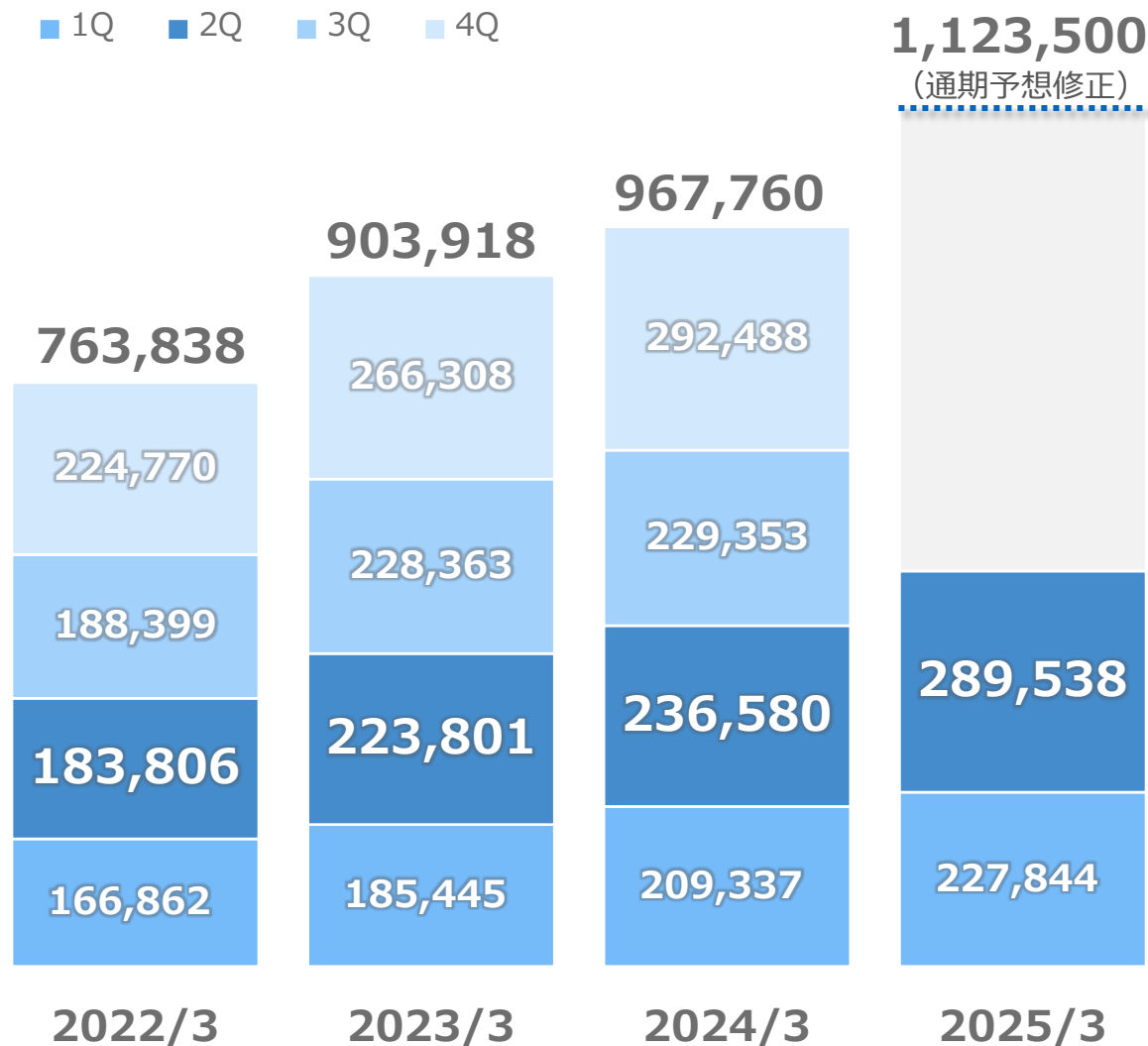


(百万円)	2024/3 (実績)		2025/3						増減額 ③-②	増減額 ③-前期	前期比	
			①期初予想 (5/9開示)		②修正予想 (8/2開示)		③修正予想 (11/6開示)					
売上高	521,842		524,500		536,850		606,116			+ 69,266	+ 84,274	+ 16.1%
ITインフラ流通	485,456		518,150		530,500		600,046			+ 69,546	+ 114,590	+ 23.6%
産業機械	6,533		6,350		6,350		6,070			△279	△462	△7.1%
繊維	29,530		—		—		—			—	△29,530	—
営業利益	18,188	3.5%	18,080	3.4%	18,080	3.4%	19,477	3.2%	+ 1,397	+ 1,288	+ 7.1%	
ITインフラ流通	16,668	3.4%	17,615	3.4%	17,615	3.3%	19,149	3.2%	+ 1,534	+ 2,480	+ 14.9%	
産業機械	511	7.8%	465	7.3%	465	7.3%	331	5.5%	△133	△179	△35.1%	
繊維	960	3.3%	—		—		—		—	△960	—	
経常利益	18,516	3.5%	18,280	3.5%	18,280	3.4%	19,560	3.2%	+ 1,280	+ 1,044	+ 5.6%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	△4,243	△0.8%	12,700	2.4%	12,700	2.4%	13,525	2.2%	+ 825	+ 17,769	—	

| 2025年3月期 第2四半期決算（中間期）

2025年3月期 2Q累計 売上高（4～9月）

■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q



売上高 **517,383** 百万円

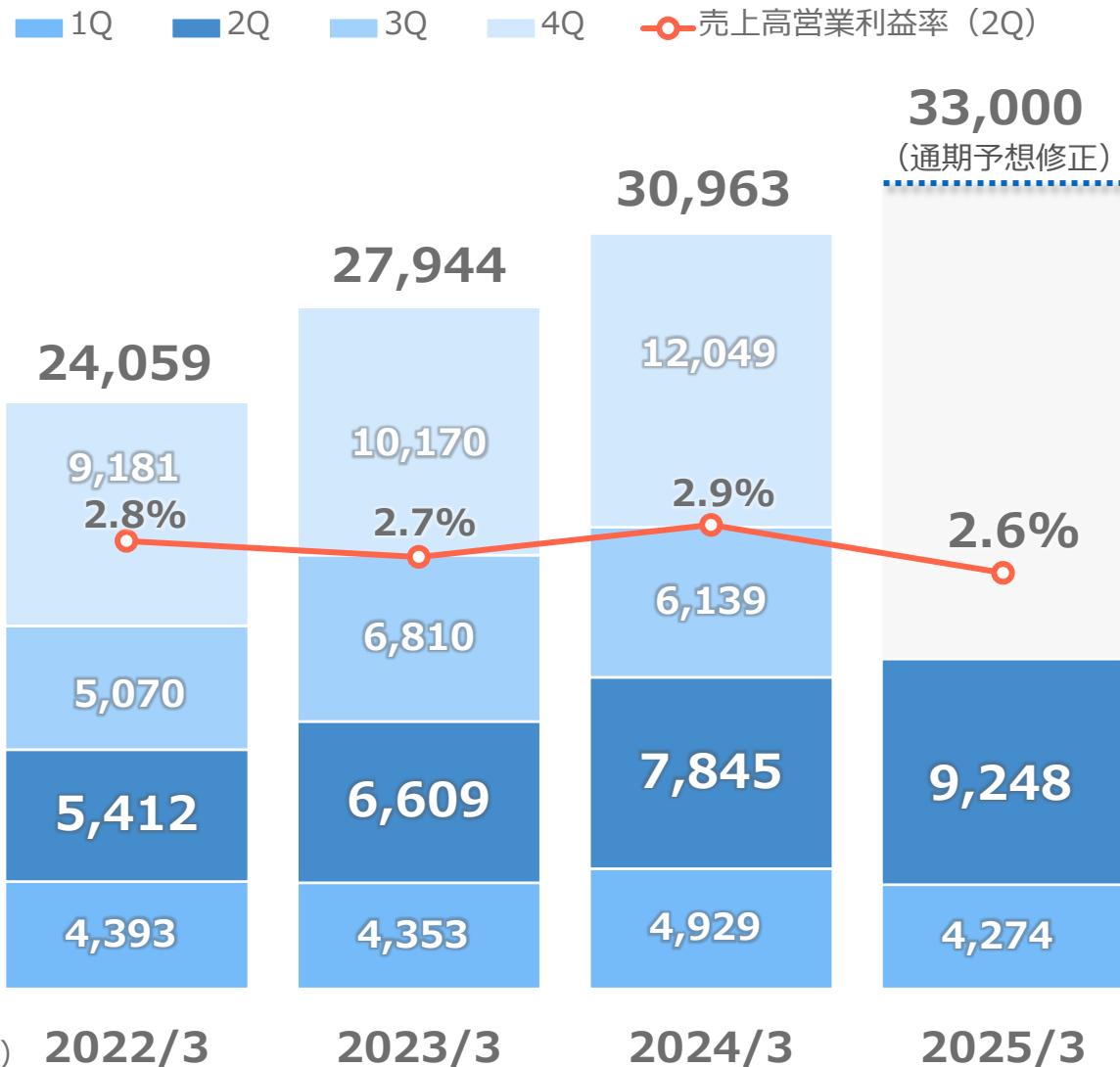
前年同期比 + **16.0%**

通期進捗率 **46.1%**

上期業績として過去最高の売上高

(百万円)

2025年3月期 2Q累計 営業利益（4～9月）



営業利益 **13,522**百万円

前年同期比 **+5.9%**

営業利益率 **2.6%**

通期進捗率 **41.0%**

2025年3月期 2Q累計 連結決算概況（4～9月）

(百万円)	2024/3 2Q	2025/3 2Q	増減	前期比	修正後 通期予想	進捗率
売上高	445,917	517,383	+71,465	+16.0%	1,123,500	46.1%
営業利益	12,774	13,522	+747	+5.9%	33,000	41.0%
経常利益	12,915	13,839	+923	+7.2%	33,400	41.4%
親会社株主に帰属する 中間純利益	8,526	9,474	+947	+11.1%	23,000	41.2%
1株当たり 中間純利益（円）	91.23	102.52				

(百万円)	2024/3	2024/9	増減	主な増減理由
総資産	405,256	396,878	△8,378	売上債権の回収による減少
純資産	142,133	140,689	△1,444	自己株式の取得
自己資本比率	35.0%	35.4%		

2025年3月期 2Q累計 セグメント別業績（4～9月）

(百万円)		2024/3 2Q	2025/3 2Q	増減	前期比
売上高	ITインフラ流通	409,237	511,053	+ 101,815	+ 24.9%
	産業機械	6,680	6,329	△ 351	△ 5.3%
	繊維	29,679	—	△ 29,679	—
	その他	320	—	△ 320	—
	合計	445,917	517,383	+ 71,465	+ 16.0%
営業利益	ITインフラ流通	11,575	13,170	+ 1,594	+ 13.8%
	産業機械	521	348	△ 172	△ 33.2%
	繊維	620	—	△ 620	—
	その他	33	—	△ 33	—
	(調整額)	24	4	△ 20	△ 83.2%
	合計	12,774	13,522	+ 747	+ 5.9%

2025年3月期 2Q累計 連結貸借対照表 (決算短信P3-4)



(百万円)	2024/3	2024/9	増減		2024/3	2024/9	増減
流動資産	377,245	368,131	△9,113	流動負債	239,742	232,804	△6,938
現金及び預金	69,372	63,176	△6,196	支払手形及び買掛金	206,212	199,961	△6,250
受取手形及び売掛金	236,306	224,977	△11,328	短期借入金	8,400	7,704	△696
商品及び製品	33,413	40,507	+7,094	固定負債	23,380	23,384	+4
有形固定資産	10,238	10,754	+516	長期借入金	12,500	13,266	+766
無形固定資産	3,691	3,797	+105	負債合計	263,123	256,188	△6,934
投資その他の資産	14,081	14,194	+113	純資産合計	142,133	140,689	△1,444
				自己株式	△5,133	△12,286	△7,153
資産合計	405,256	396,878	△8,378	負債純資産合計	405,256	396,878	△8,378

受取手形及び売掛金	236,306	→	224,977	△11,328	DISの売上債権の回収
支払手形及び買掛金	206,212	→	199,961	△6,250	DISの仕入債務の減少
借入金合計	20,900	→	20,970	+70	

2025年3月期 2Q累計 連結損益計算書 (決算短信P5)

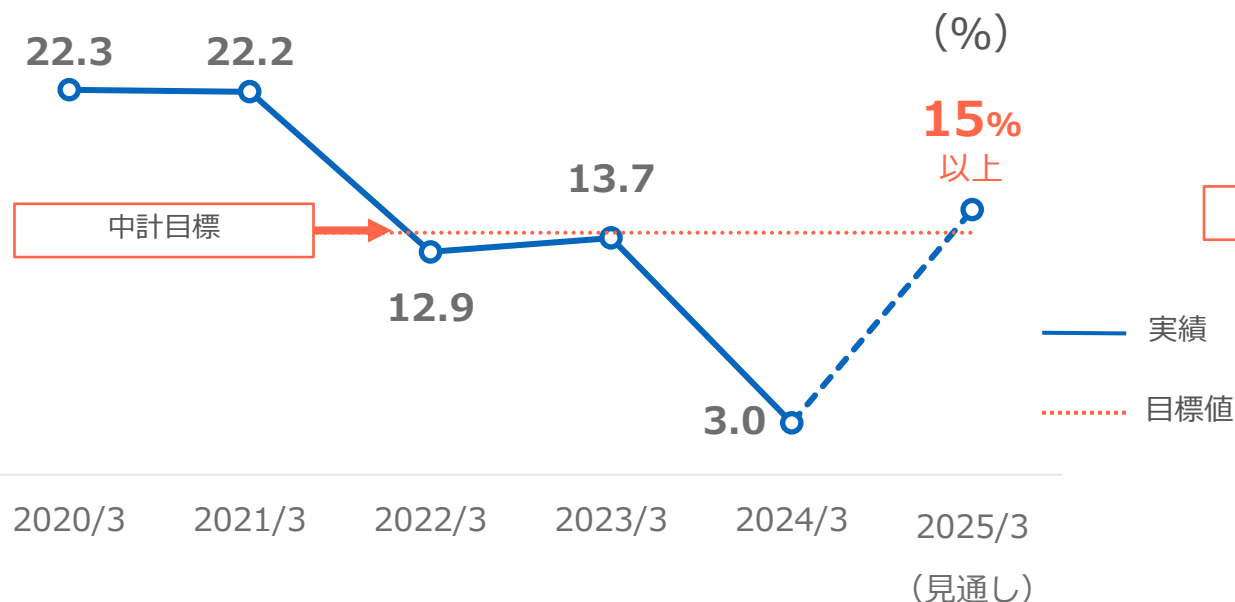


(百万円)	2024/3 2Q		2025/3 2Q		増減	前期比
	実績	率	実績	率		
売上高	445,917		517,383		+ 71,465	+ 16.0%
売上総利益	36,214	8.1%	34,560	6.7%	△1,653	△4.6%
販売費及び一般管理費	23,439	5.3%	21,038	4.1%	△2,401	△10.2%
営業利益	12,774	2.9%	13,522	2.6%	+ 747	+ 5.9%
経常利益	12,915	2.9%	13,839	2.7%	+ 923	+ 7.2%
特別損失	25		1		△24	△95.5%
親会社株主に帰属する 中間純利益	8,526	1.9%	9,474	1.8%	+ 947	+ 11.1%

中期経営計画の進捗状況＜グループ経営指標＞

ROE 14%以上

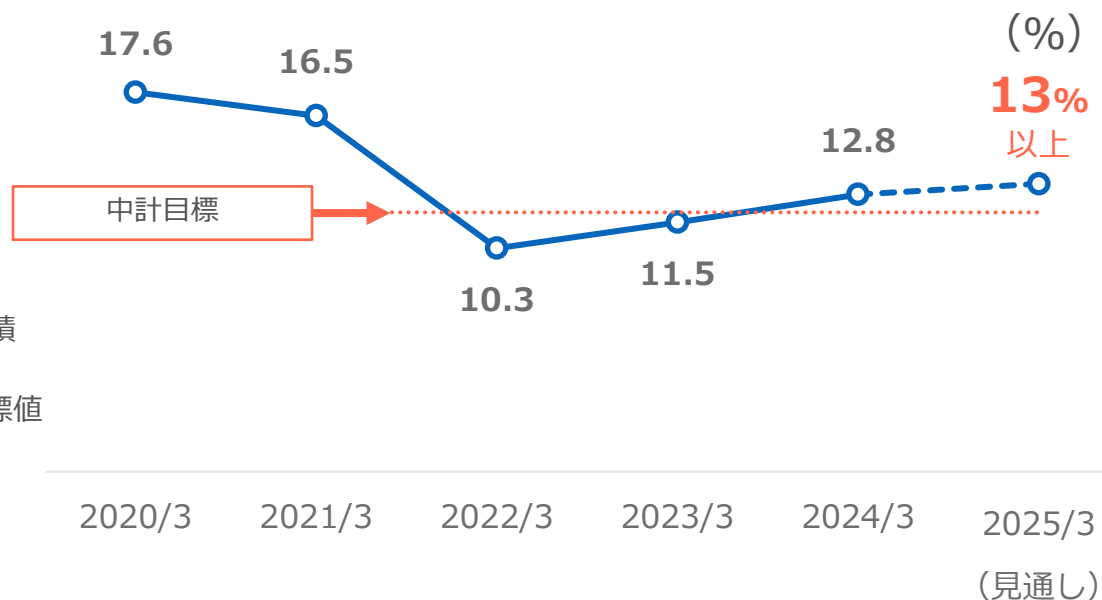
自己資本当期純利益率
＜株主資本に対するリターン＞



24年3月期は一過性の特別損失計上のため低下も
今期は本来の収益力に回復の見通し

ROIC 12%以上

投下資本利益率
※税引後営業利益／（純資産＋有利子負債）
＜投下資本に対するリターン＞



自社認識の資本コストを上回るとともに
中計目標水準をクリアする見通し

1株配当

自己株式取得

配当性向

総還元性向

2025年3月期（予想）

中間	期末	年間
45円	45円	90円

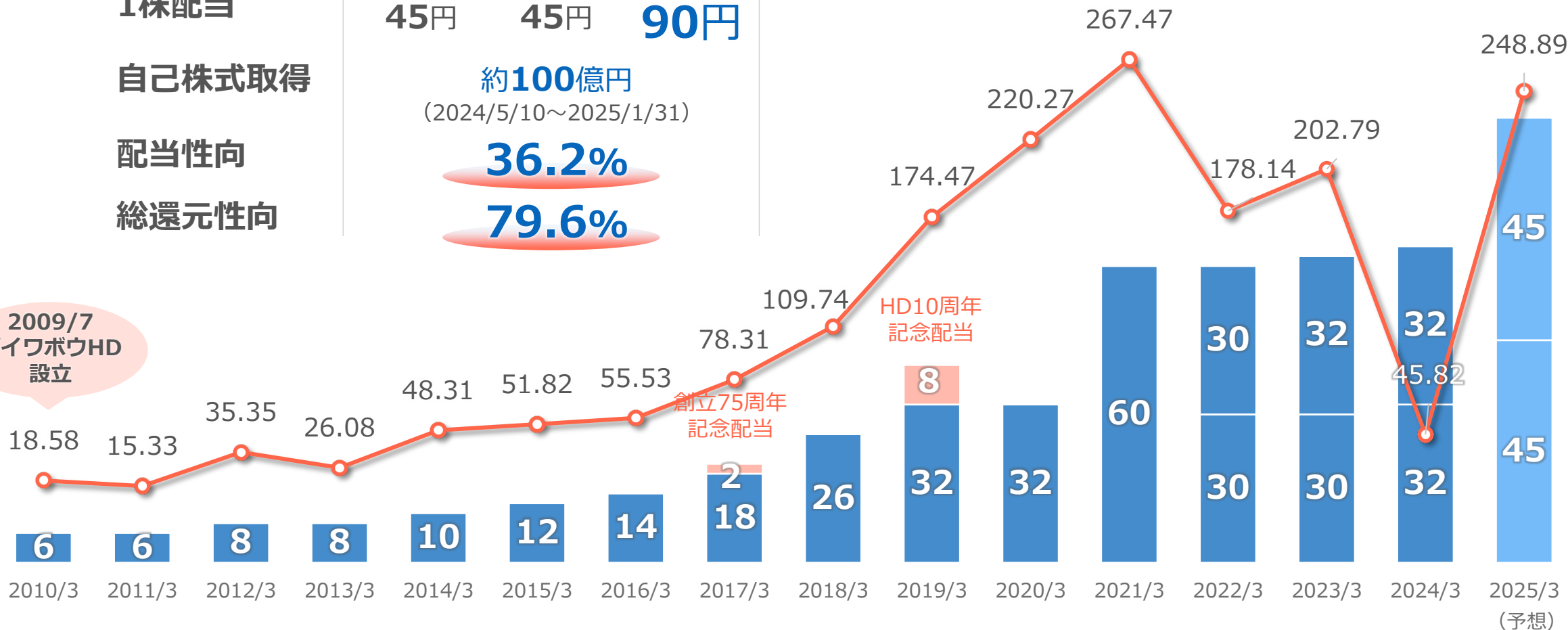
約100億円
(2024/5/10~2025/1/31)

36.2%

79.6%

■ 1株当たり配当金（円）
○ 1株当たり利益/EPS（円）

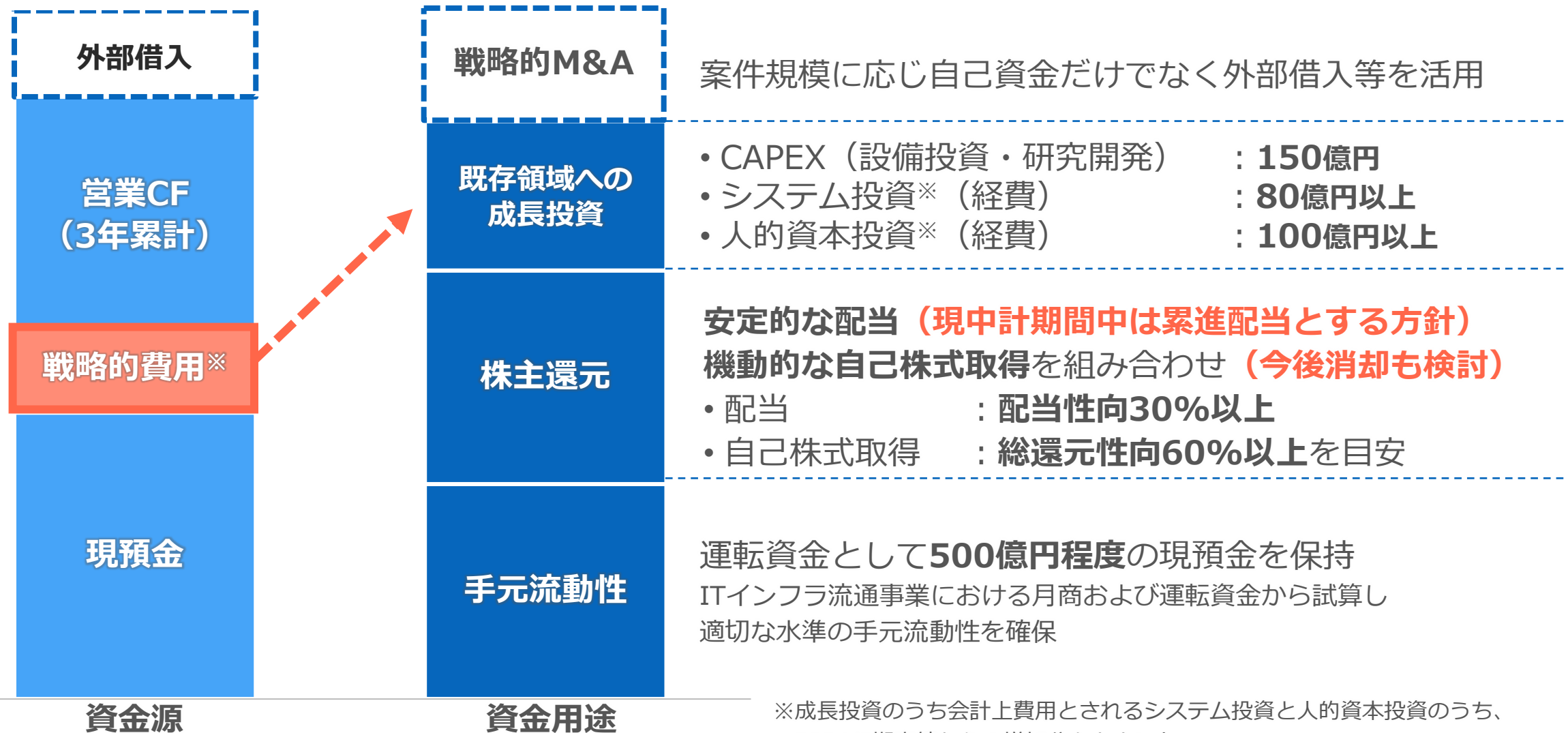
2009/7
ダイワボウHD
設立



※株式併合（2017/10/1）・株式分割（2021/4/1）を過年度に遡及して表示

キャピタルアロケーション方針（2025/3期～2027/3期）

3カ年累計でのキャピタルアロケーションイメージ



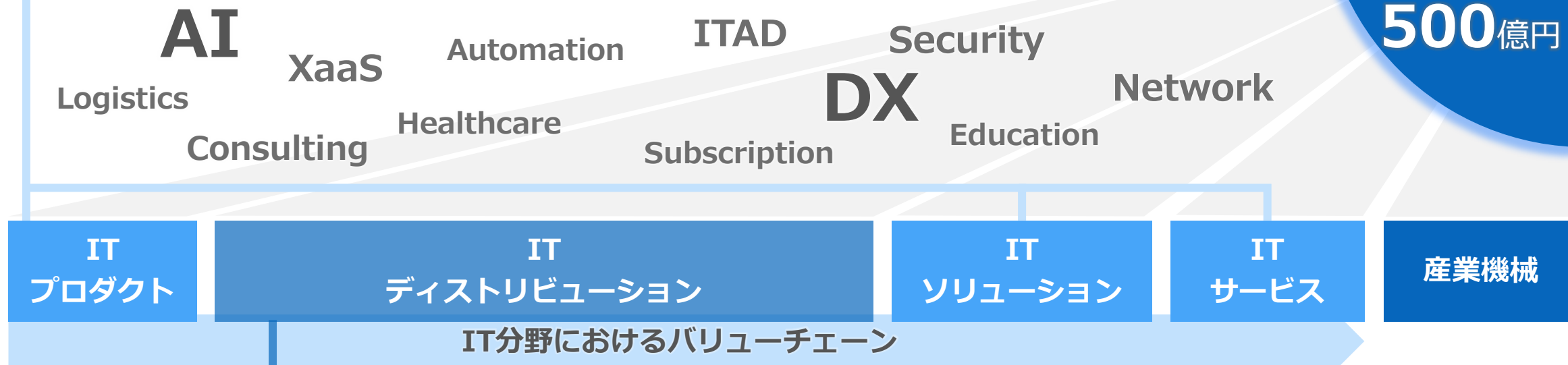
※成長投資のうち会計上費用とされるシステム投資と人的資本投資のうち、2024/3期実績からの増加分をカウント

『2030 VISION』で達成したい当社のあるべき姿（再掲）

新規領域は知見のあるIT市場の周辺分野や
AI・DX関連を含めた先進テクノロジー分野を中心に模索

FY2030目標
連結営業利益

500億円



コア領域のさらなる強化・深化に向けて

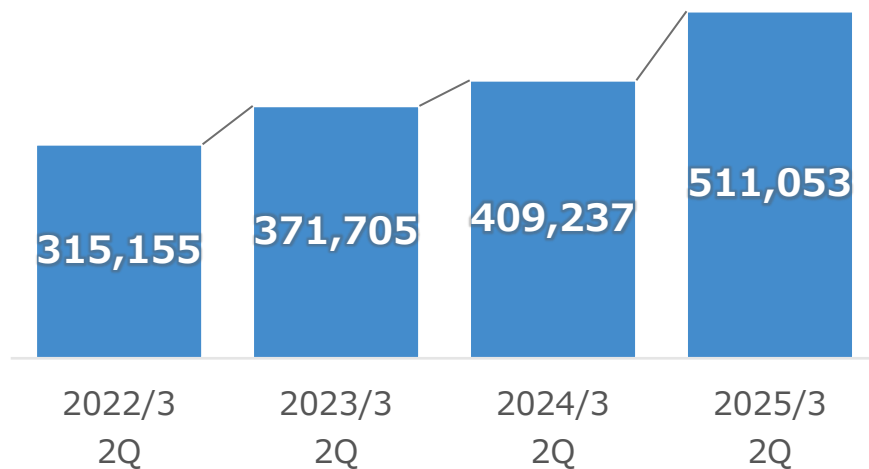
3つのS【 Service / Solution / Sustainability 】を中心に機能拡充

迅速な意思決定と投資が可能なホールディングス体制の利点を活かして持続的成長を実現

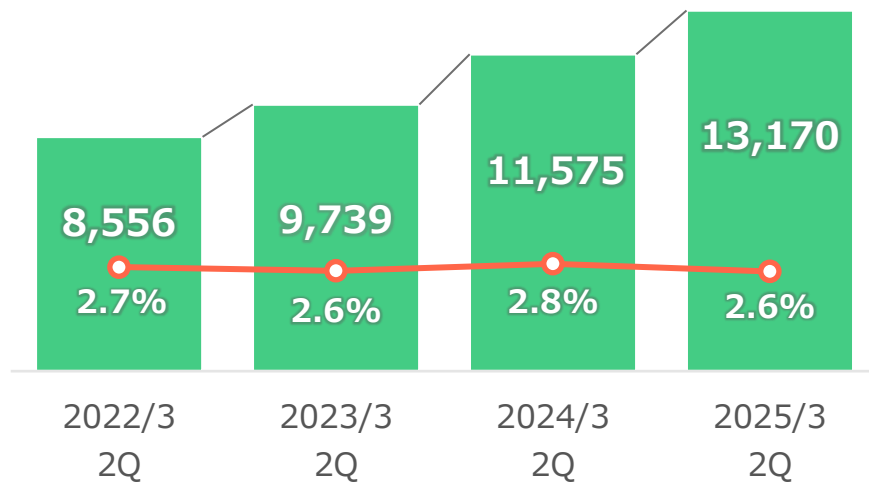
▶▶▶ あるべき姿の体現に向け社名変更も検討

|ITインフラ流通事業

(百万円)



■ 売上高 ■ 営業利益 ■ 売上高営業利益率



取扱高 ※旧基準売上高

551,624百万円 (前期比+**25.3%**)

売上高

511,053百万円 (前期比+**24.9%**)

営業利益

13,170百万円 (前期比+**13.8%**)

PC出荷台数

172.3万台 (前期比+**25.0%**)

サーバー出荷台数

2.8万台 (前期比+**10.3%**)

iKAZUCHI(雷)取扱高

19,058百万円 (前期比+**38.7%**)

事業概況

コーポレート 向け市場

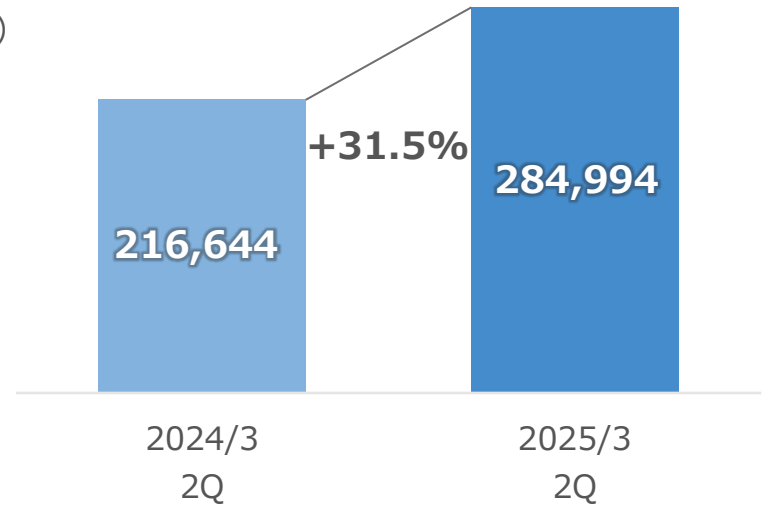
- 企業・官公庁向けを中心に、PCやサーバー、ソフトウェアの販売が好調に推移
- 案件の大型化に伴う競争激化のため営業利益率は前年を下回ったものの、売上伸長により営業利益額は計画を上回る
- iKAZUCHI(雷)経由のサービス契約獲得は順調に伸長
- 文教向けでは、校務用端末のWindows更新需要およびGIGAスクール第2期の先行調達案件を獲得し前年を上回る

コンシューマ 向け市場

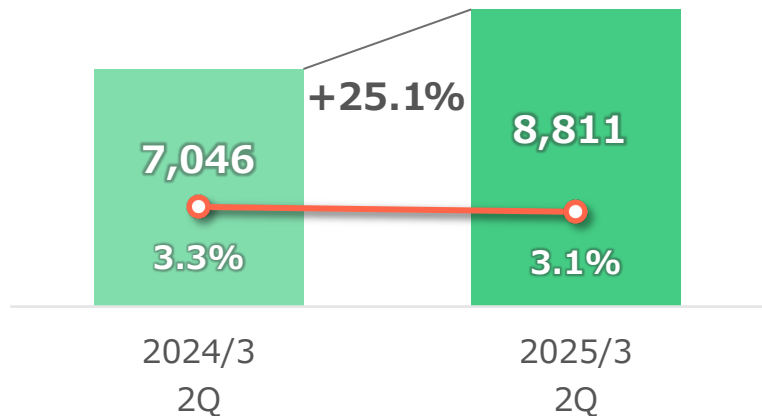
- EC向けのPC販売は苦戦するも、量販店向けはPC・モニタ販売が堅調に推移し前期比横ばい

ITインフラ流通事業 前年同四半期（2Q）比較

(百万円)



■ 売上高 ■ 営業利益 ■ 営業利益率



■ 前年度2Q（7～9月）との業績差異について

- PC出荷台数 +**38.6%**
大企業向けの大型導入などWindows更新需要の高まりを見せ増加
- iKAZUCHI（雷）取扱高 +**35.9%**
エンドユーザー契約件数が順調に増加
サービス単価の上昇傾向による取扱高増
- 業種別では、情報通信業、製造業、卸売業・小売業が好調に推移し、売上高が大幅増
- 営業利益率は前年を下回るも今年度1Q（1.9%）より改善

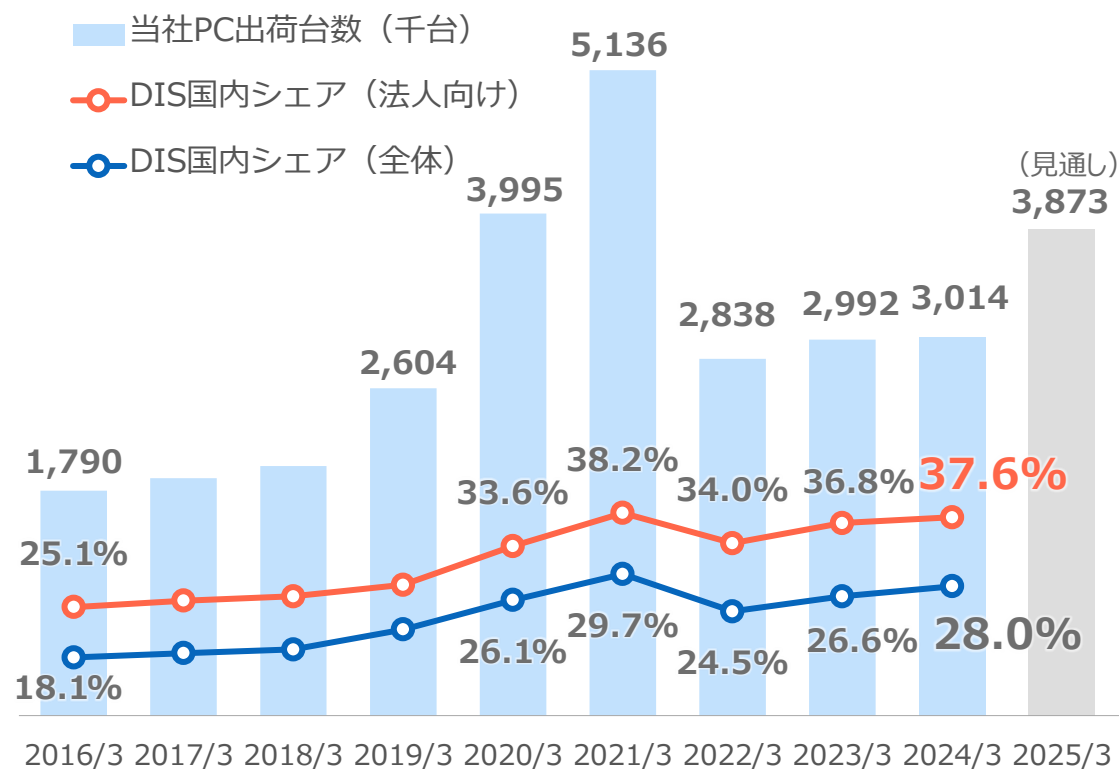
ITインフラ流通事業の季節性について

多くの国内企業で決算期となる3月と9月に需要が集中する傾向がある。

国内PCマーケットシェア・商品カテゴリ構成

通期PCシェア推移

法人利用のPC**3**台に**1**台以上**当社**が関与



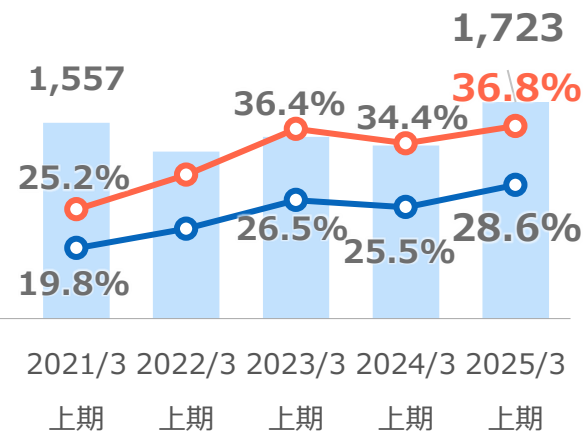
※MM総研調査結果より算出

(2025/3上期は調査会社の速報値をベースにしているため、シェアの公表値を変更する可能性があります)

上期実績推移

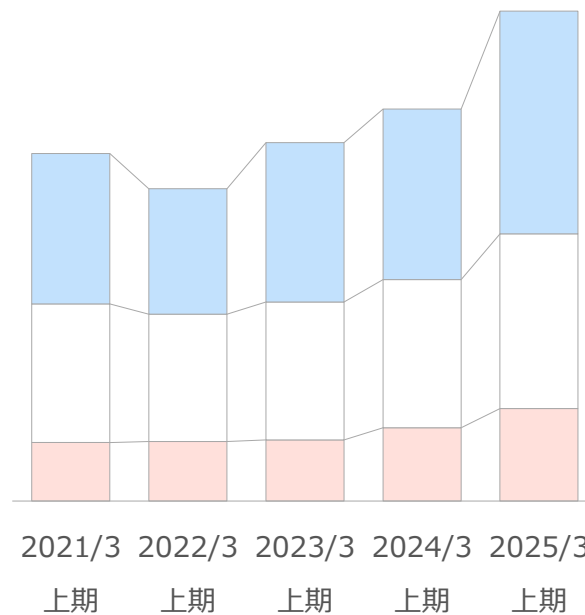
国内PCマーケットシェア

法人向け **36.8%**
全体 **28.6%**



DISカテゴリ別取扱高

前年比
PC本体* **+30.6%**
周辺機器・サービス等 **+17.9%**
ソフトウェア **+26.2%**

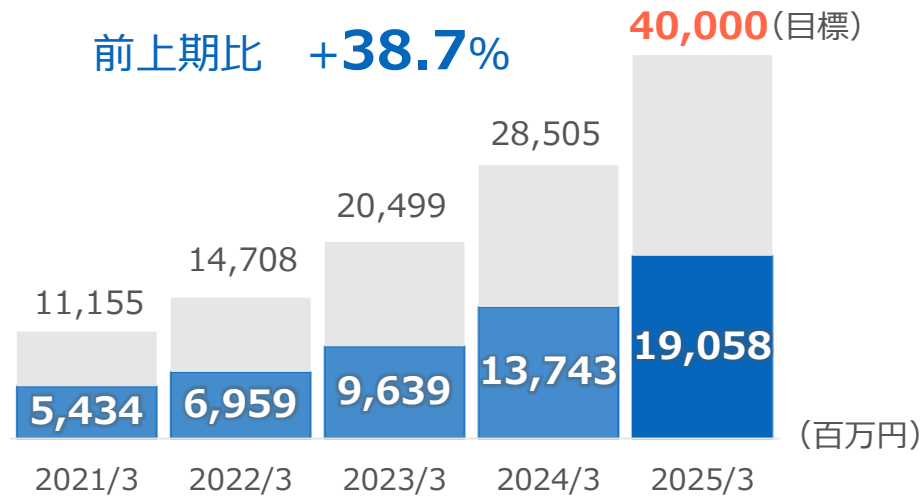


*PC本体 = PC、サーバー、タブレット、スマートフォン等の端末本体

iKAZUCHI(雷)経由でのサブスク実績

iKAZUCHI(雷)取扱高

サブスクリプション管理ポータル「iKAZUCHI(雷)」を通じた
販売パートナーへの販売総額（ソフトウェアの内数）



対応ベンダー・サービス数

133ベンダー
248サービス
(2024/6)

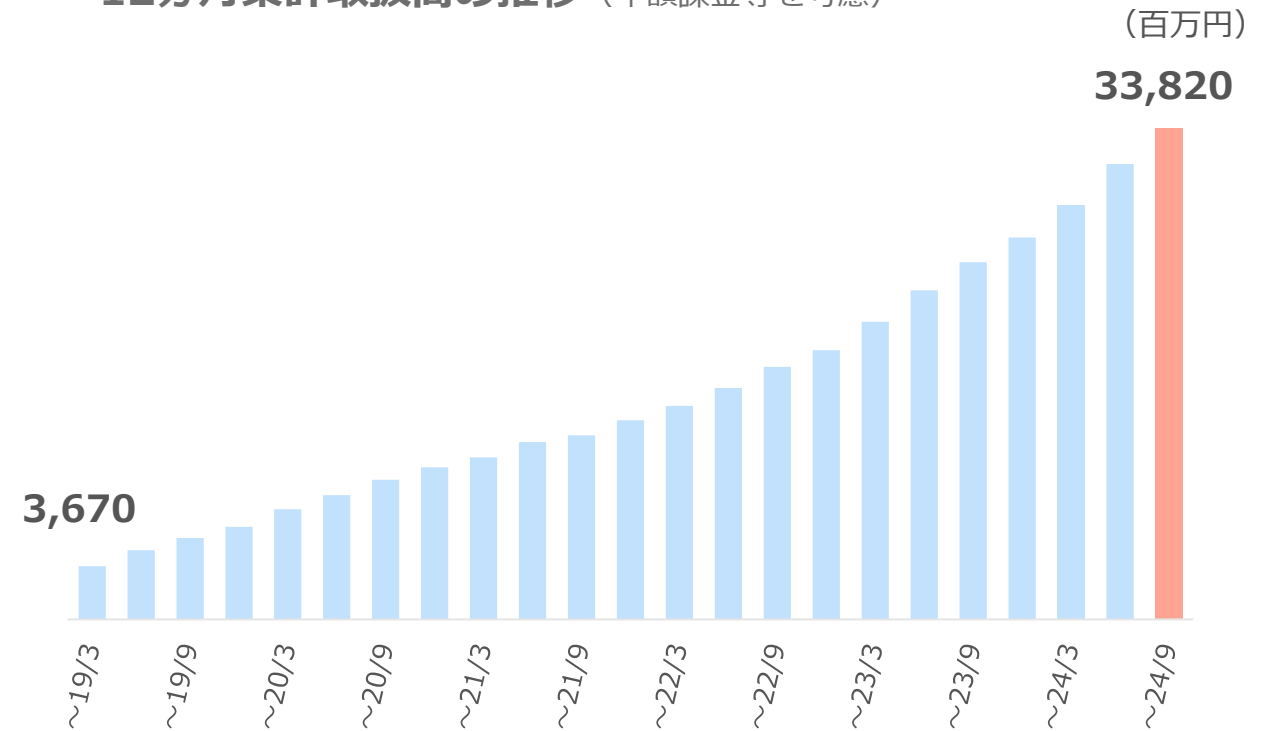
▶

134ベンダー
250サービス
(2024/9)

サブスクリプションビジネスの
市場を拡大し継続収益の「地盤」を強化



■iKAZUCHI(雷) 12カ月累計取扱高の推移（年額課金等を考慮）



iKAZUCHI(雷)の成長軌道

課金形態として年額での購入比率が高いため、四半
期毎ではなく12カ月累計の推移を見ることで着実な
成長が確認できる

成長分野でのポジション &バリューアップ

- クラウドプラットフォーム市場でのシェア拡大
- SaaSモデルにおける事業領域の拡大

DX推進による パートナーリレーションシップ

- 企業価値向上に向けたビジネスモデル変革
生産性向上の実現
- 先端技術を含む
海外ベンダー拡販による
事業領域拡大



業界リーダー企業として コア領域の深化

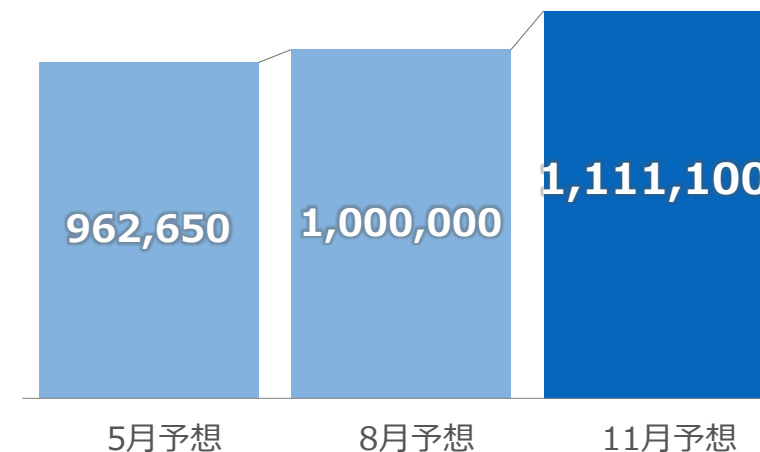
- ITデバイス基盤における事業領域の拡大
- 高付加価値商材
ビジネス領域の成長
- 技術専門部隊による支援体制を整備し提案力強化

企業ブランディング と戦略的投資

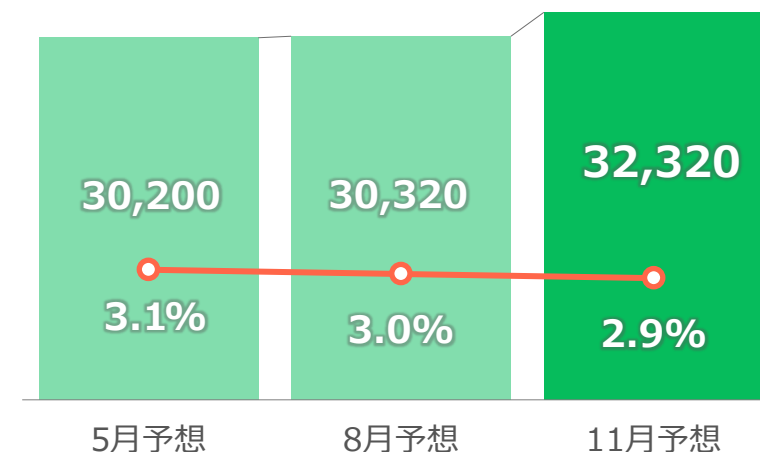
- 社会認知度向上、業界発展への寄与および地域社会への貢献
- 事業強化に向けた投資
(システム、M&A、業務提携)
- 業界最適化に向けた投資
(物流機能、iKAZUCHI(雷))

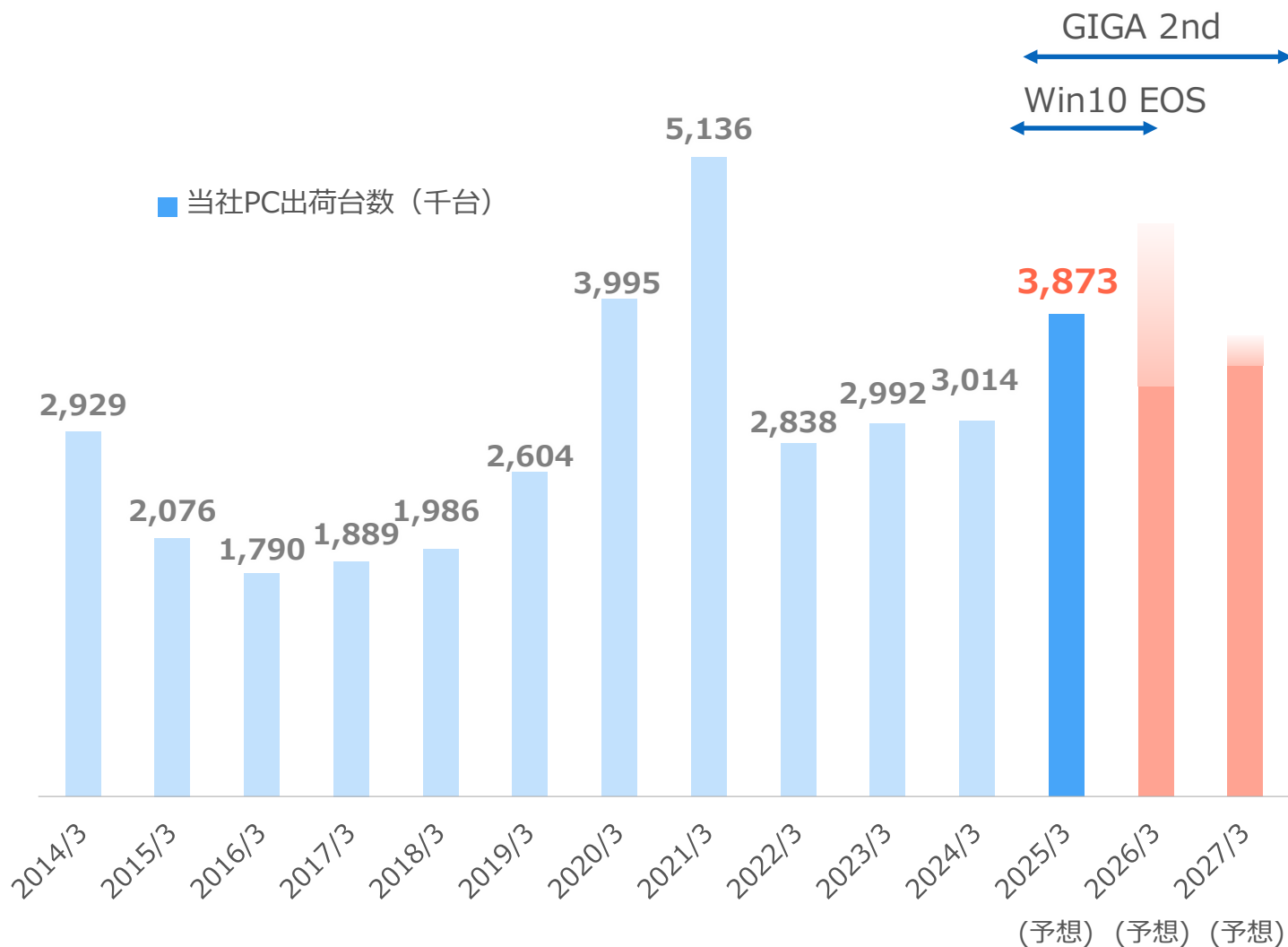
2025年3月期 業績予想推移

(百万円)



■ 売上高 ■ 営業利益 ■ 営業利益率





Windows10のサポート終了

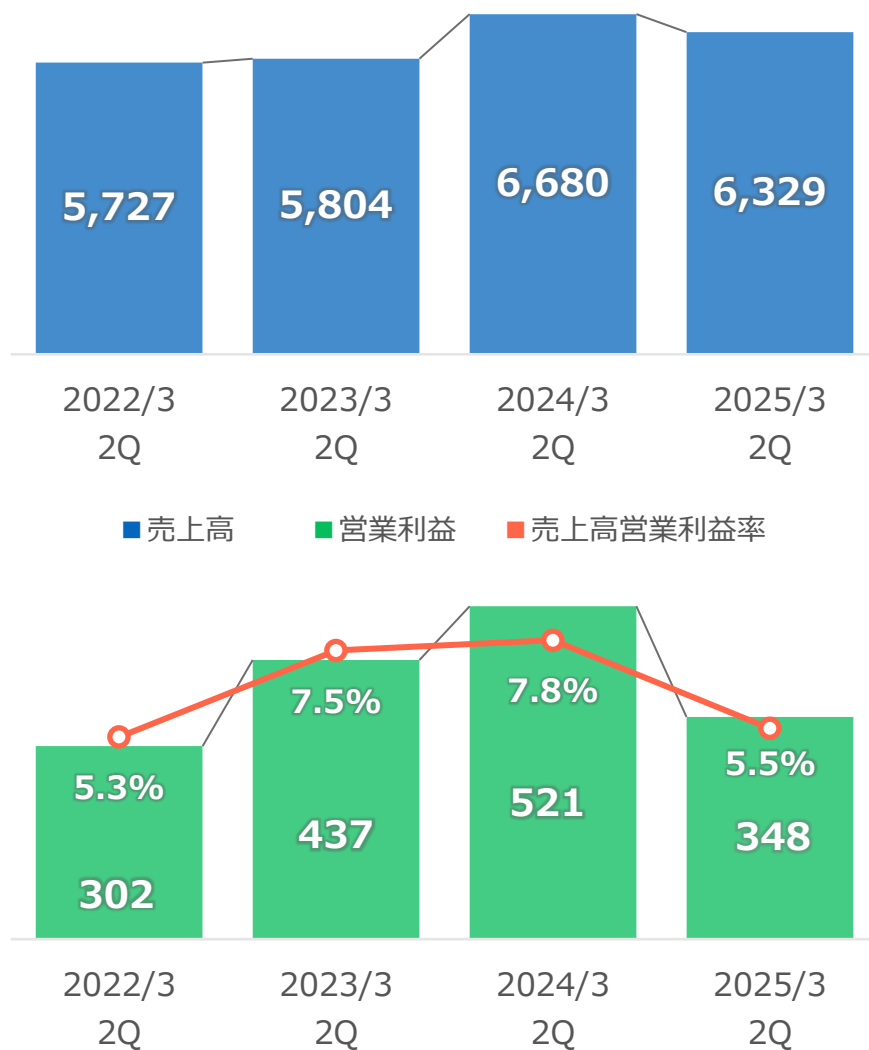
- 2025年10月14日Windows10サポート終了
- 大企業向けの導入が当初想定よりも前倒しとなり、出荷台数は2Qで前年比+38.6%
- 下期も大幅増加となる**215万台**を予想（前年比+31%）

GIGAスクール構想第2期の見通し

- 今年度の更新は先行調達案件（オプタアウト）分となり限定的
- 都道府県を中心とした共同調達による公示および入札は2025年1月以降に実施される予定
- 入札後導入のピークは、2026年3月期を想定

産業機械事業

(百万円)



売上高

6,329百万円（前期比△**5.3%**）

営業利益

348百万円（前期比△**33.2%**）

事業概況

工作機械部門

- 日本工作機械工業会の4～9月受注総額は前期比0.3%の微増となるなか、当社受注高は前期比横ばい
- 予定していた納品が進んだものの、前年受注の低迷が影響し減収減益
- 国内市場における航空機、鉄道業界の本格的な需要回復は2026年3月期下期以降の見通し

自動機械部門

- 受注高は前期比4.7%の減少
- 売上高の計上が下期に一部持ち越された影響などで減収

工作機械における潜在市場への事業拡大

- 省人化・無人化機能搭載の機台による生産効率向上の提案
- 長岡工場増築による戦略的かつ計画的な生産の実施
- 短納期での販売促進を展開し新規市場への拡大を図る
- 海外市場のさらなる拡大に向け成長が見込まれる市場への展開を模索



自動機械における包装機自動化需要の取り込み

- 自動供給装置標準化による品質向上とコストダウン
- 中国包装機メーカーとの協業による生産性向上
- 食品・製菓業界に向けて提案営業の強化

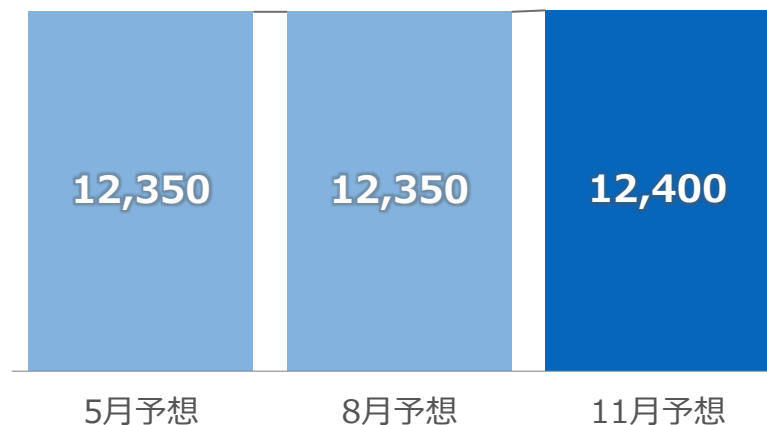
- 拡大が見込めるエネルギー・航空機業界を重点とした提案営業の強化

サービス強化による収益力向上

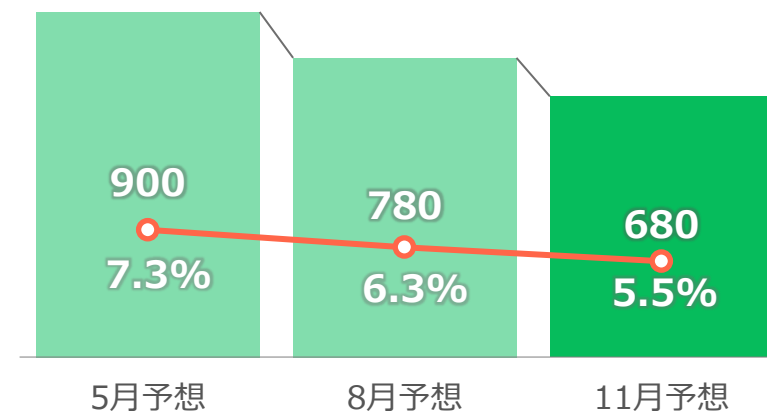
- 顧客満足度向上と安定的な収益拡大を図る
- 導入済み機台のオーバーホール提案を重点的に実施
- 協力企業の開拓や社員のスキルアップによる技術力向上

2025年3月期 業績予想推移

(百万円)

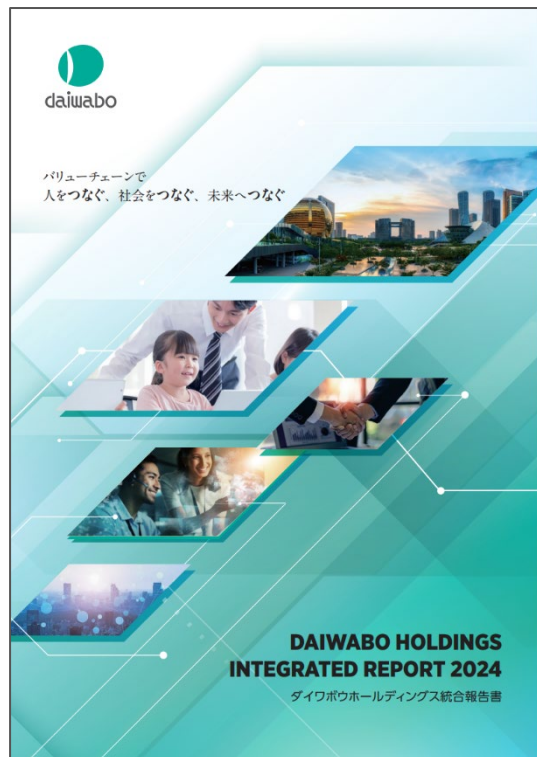


■ 売上高 ■ 営業利益 ■ 営業利益率



「統合報告書2024」の発行

- 当社グループの強みや「つなぐ力」に焦点を当て、独自の価値創造ストーリーと取り組みの進捗をご紹介
- 事業会社からのメッセージ、社員との座談会、My Purpose、証券アナリストとの対談など、生の声を幅広くお届けできるようコンテンツを強化



ダウンロード用QR



参考資料

- ▶ 前期（2024年3月期）決算の遡及修正について
- ▶ 中期経営計画の概要（2025/3～2027/3）
- ▶ ITインフラ流通事業の「取扱高」について
- ▶ 事業概要
- ▶ 業績推移グラフ

前期（2024年3月期）決算の遡及修正について

- アルファテック・ソリューションズ株式会社との企業結合について、前中間連結での暫定的な会計処理を「販売費及び一般管理費」の増加と「法人税等調整額」の同額の減少に修正。前3Q以降は確定値にて反映済み。

(百万円)	第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)		増減
	遡及前	遡及後	
販売費及び一般管理費	23,421	23,439	+17.7
営業利益	12,792	12,774	△17.7
経常利益	12,933	12,915	△17.7
税金等調整前 中間純利益	12,907	12,890	△17.7
法人税等調整額	389	371	△17.7
法人税等合計	4,353	4,335	△17.7
親会社株主に帰属する 中間純利益	8,526	8,526	0

参考資料

- ▶ 前期（2024年3月期）決算の遡及修正について
- ▶ 中期経営計画の概要（2025/3～2027/3）
- ▶ ITインフラ流通事業の「取扱高」について
- ▶ 事業概要
- ▶ 業績推移グラフ

01

ホールディングス 体制での成長

- 持株会社として新たな事業領域への参入を探求
- 事業会社はセグメント内での強化・再編に着手

02

"過去最高" へのチャレンジ

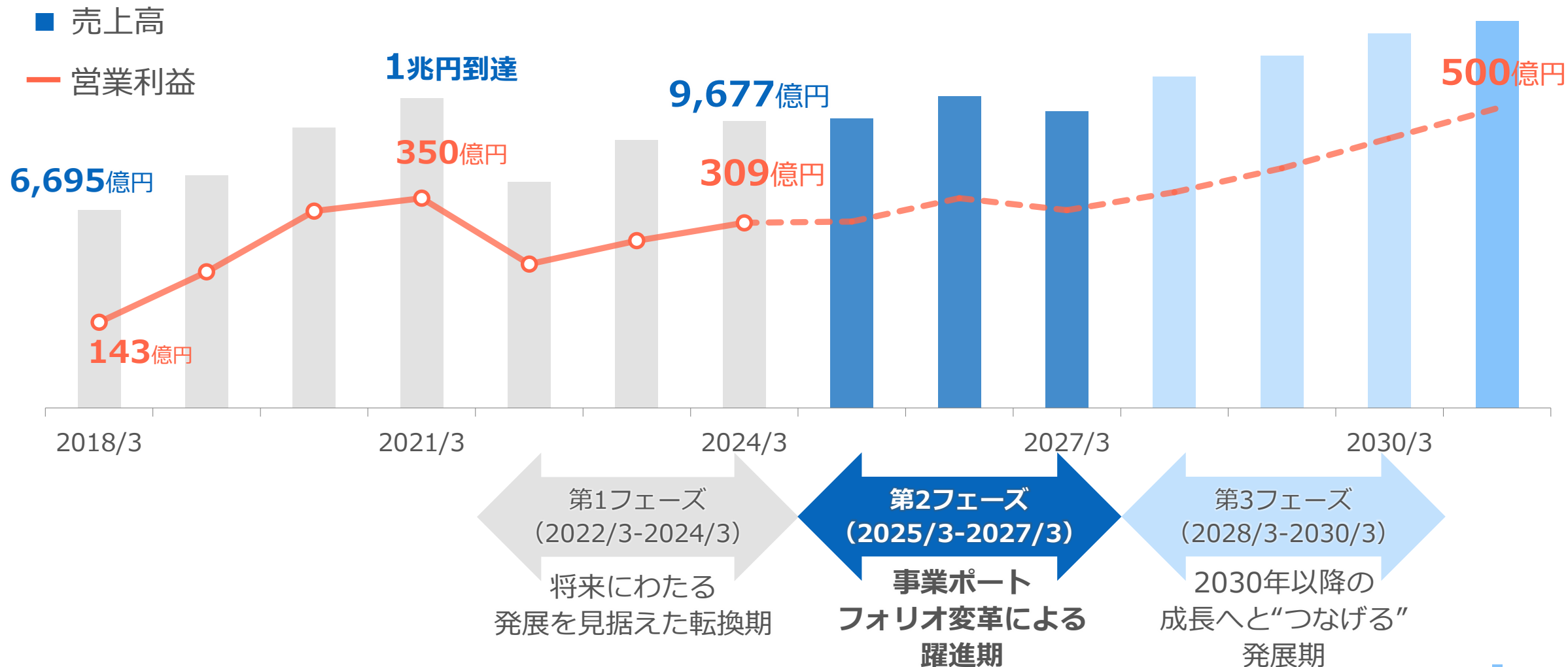
- 売上高、利益における過去最高業績の更新
- 会社、組織、事業、個人それぞれのフィールドでベストパフォーマンスを目指す

03

ステークホルダー エンゲージメントの向上

- 株主、取引先、従業員、地域社会などとの信頼関係向上と相互理解による協働
- 人的資本、システム、ガバナンス面など必要とされる経営基盤のさらなる強化
- ウェルビーイング経営の推進

『2030 VISION』からバックキャストする観点でも重要な3カ年



さらなる成長のために、M&Aを積極的に推進する計画
事業領域とハードルレートを意識した規律ある投資判断により実施する

事業領域

M&Aは以下の事業領域を中心に実施を検討

- AI
- DX
- XaaS
- Subscription
- Network
- Logistics
- ITAD
- Consulting
- Security
- Automation
- Education
- Healthcare



投資・調達の意思決定

定量的に投資判断を実施

資本コストを上回るか

株主資本コスト：6.2%~7.5% WACC：5.8%~7.0%

長期的にEPSの向上に資するか

自己株式の取得と比較検討

財務健全性：長期的に格付A※を維持

資本効率を低下させないか

資金調達方針

小規模のものは手元資金で賄うが、必要に応じて借入を中心に資金調達

参考資料

- ▶ 前期（2024年3月期）決算の遡及修正について
- ▶ 中期経営計画の概要（2025/3～2027/3）
- ▶ ITインフラ流通事業の「取扱高」について
- ▶ 事業概要
- ▶ 業績推移グラフ

取扱高

Transaction Volume

- 2021年3月期以前の売上高と同じ基準で算出
(= 会計基準変更前の売上高)
- 取引規模を示す上で重要な指標となるため「取扱高」として継続して活用
- 管理会計における営業評価

取扱高

売上高

「収益認識に関する会計基準」

適用による影響額

(2022/3期～)

一部の保守・保証サービス、iKAZUCHI(雷)によるソフトウェア販売など、会計基準上の「代理人取引」について、販売対価の純額を売上高に計上

売上高

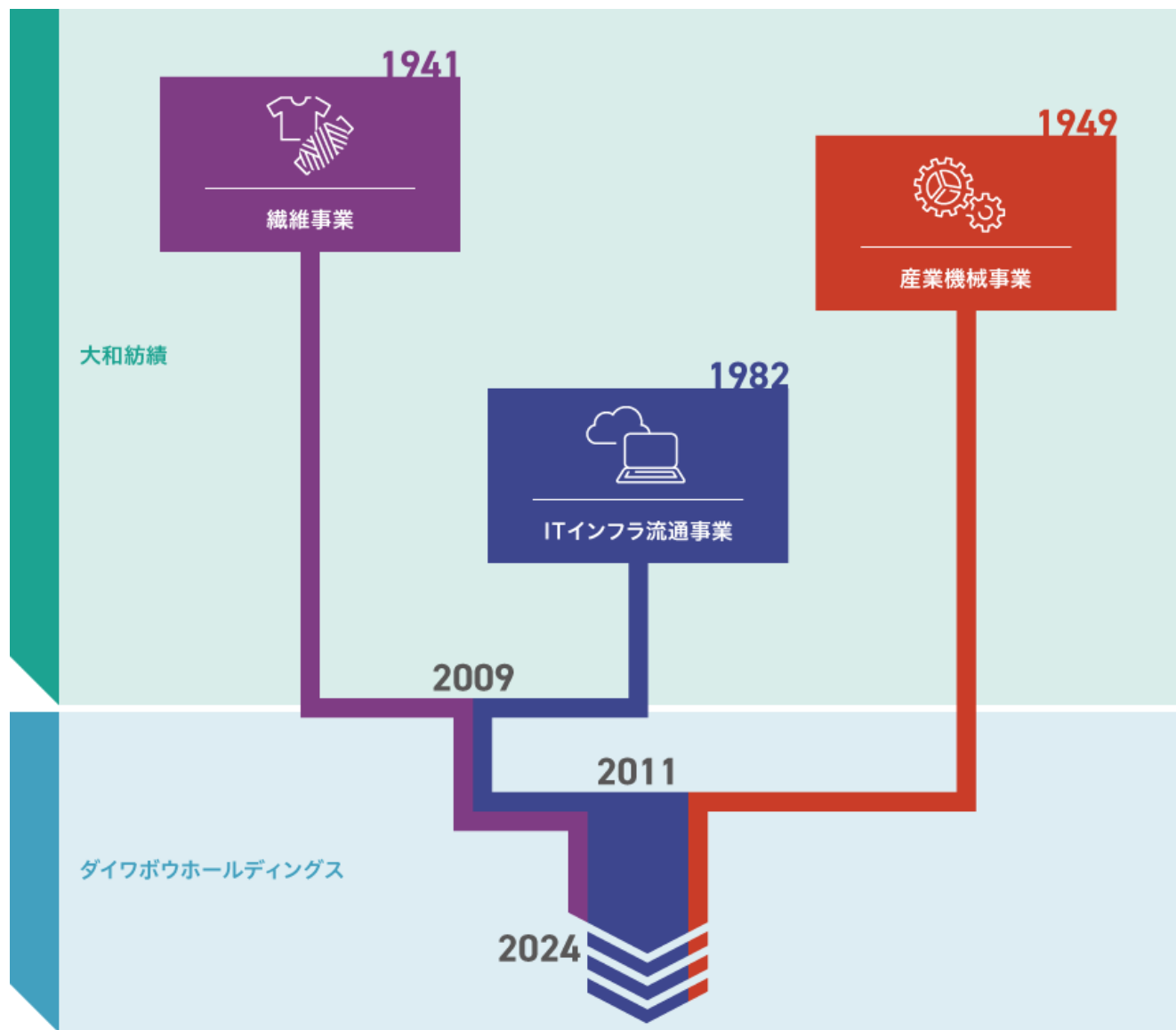
Net Sales

- 2022年3月期以降の売上高
- 財務会計における業績評価

参考資料

- ▶ 前期（2024年3月期）決算の遡及修正について
- ▶ 中期経営計画の概要（2025/3～2027/3）
- ▶ ITインフラ流通事業の「取扱高」について
- ▶ **事業概要**
- ▶ 業績推移グラフ

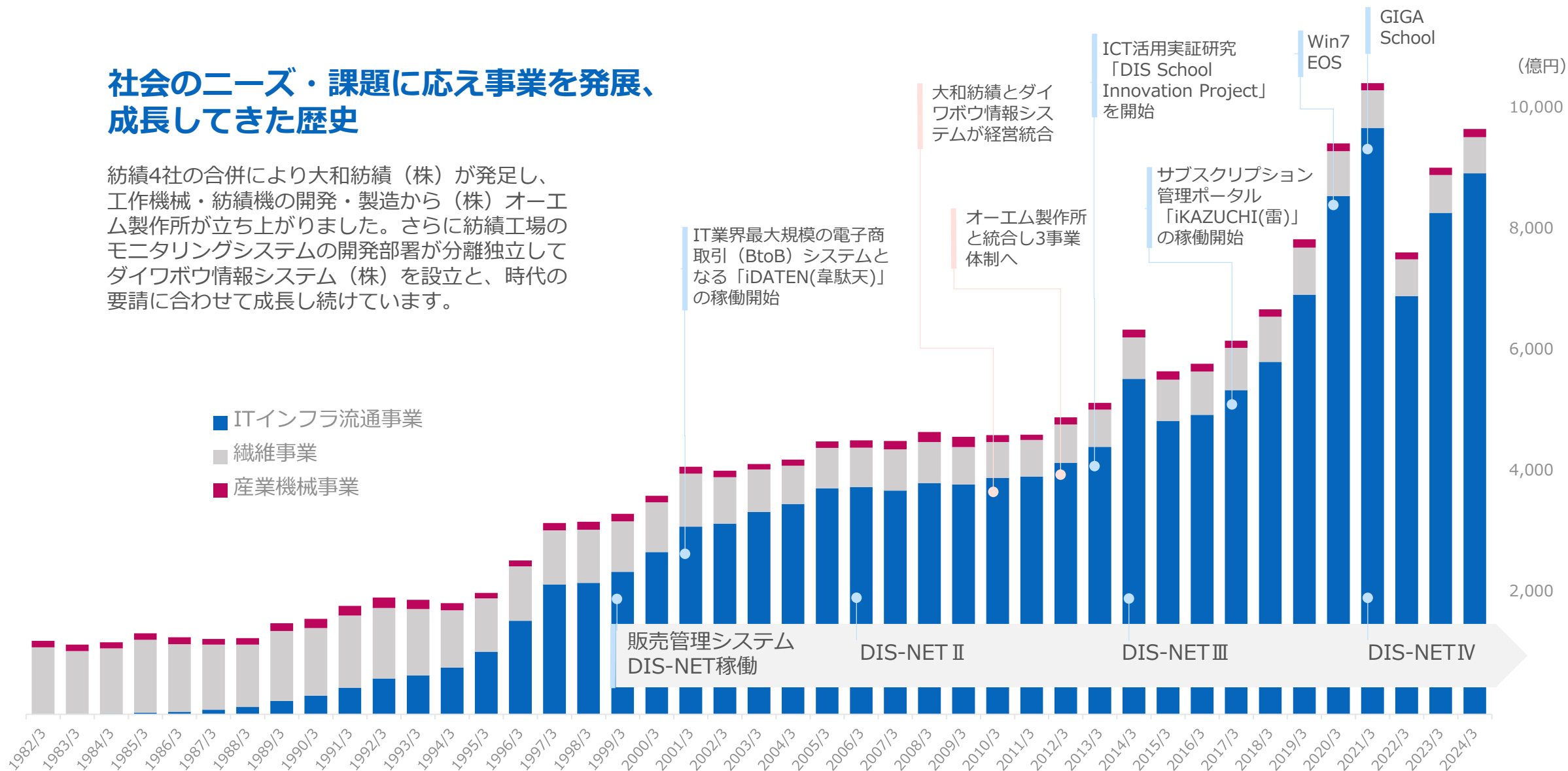
グループの沿革



- 1941. 4** 錦華紡績、日出紡織、出雲製織および和歌山紡織の4社が合併し、**大和紡績**として発足
- 1949. 5** 大和紡績が東証1部上場
- 1949. 7** 大和紡績が穴道工場を分離し、大和機械工業（現**オーエム製作所**）を設立
→その後、工作機械・紡績機の製造を手掛けていた大阪機械製作所と1960年に合併しオーエム製作所が誕生
- 1971.11** オーエム製作所が東証1部上場
- 1982. 4** 大和紡績が新規展開の一環として、情報関連事業へ進出するために**ダイワボウ情報システム**を設立
- 2000. 9** ダイワボウ情報システムが東証1部上場
- 2009. 4** 大和紡績とダイワボウ情報システムが経営統合
- 2009. 7** 大和紡績が**ダイワボウホールディングス**へ商号変更
繊維事業の中核会社として新たに**大和紡績**を設立
- 2011. 7** ダイワボウホールディングスとオーエム製作所が経営統合 ⇒**3事業体制**へ
- 2023.11** 大和紡績の独立化（株式譲渡）を決定
- 2024. 3** 株式譲渡により**大和紡績の独立**が実現

社会のニーズ・課題に応え事業を発展、成長してきた歴史

紡績4社の合併により大和紡績（株）が発足し、工作機械・紡績機の開発・製造から（株）オーエム製作所が立ち上がりました。さらに紡績工場のモニタリングシステムの開発部署が分離独立してダイワボウ情報システム（株）を設立と、時代の要請に合わせて成長し続けています。



ダイワボウ情報システム（DIS）の歩み

1982 DIS創業

- 大和紡績が、PC活用による生産現場のモニタリングシステムを自社開発したノウハウを生かして、わずか10名でスタート
- システム開発・販売ではなく、PCをはじめとした情報機器の販売にシフト

1983-1984 多店舗展開

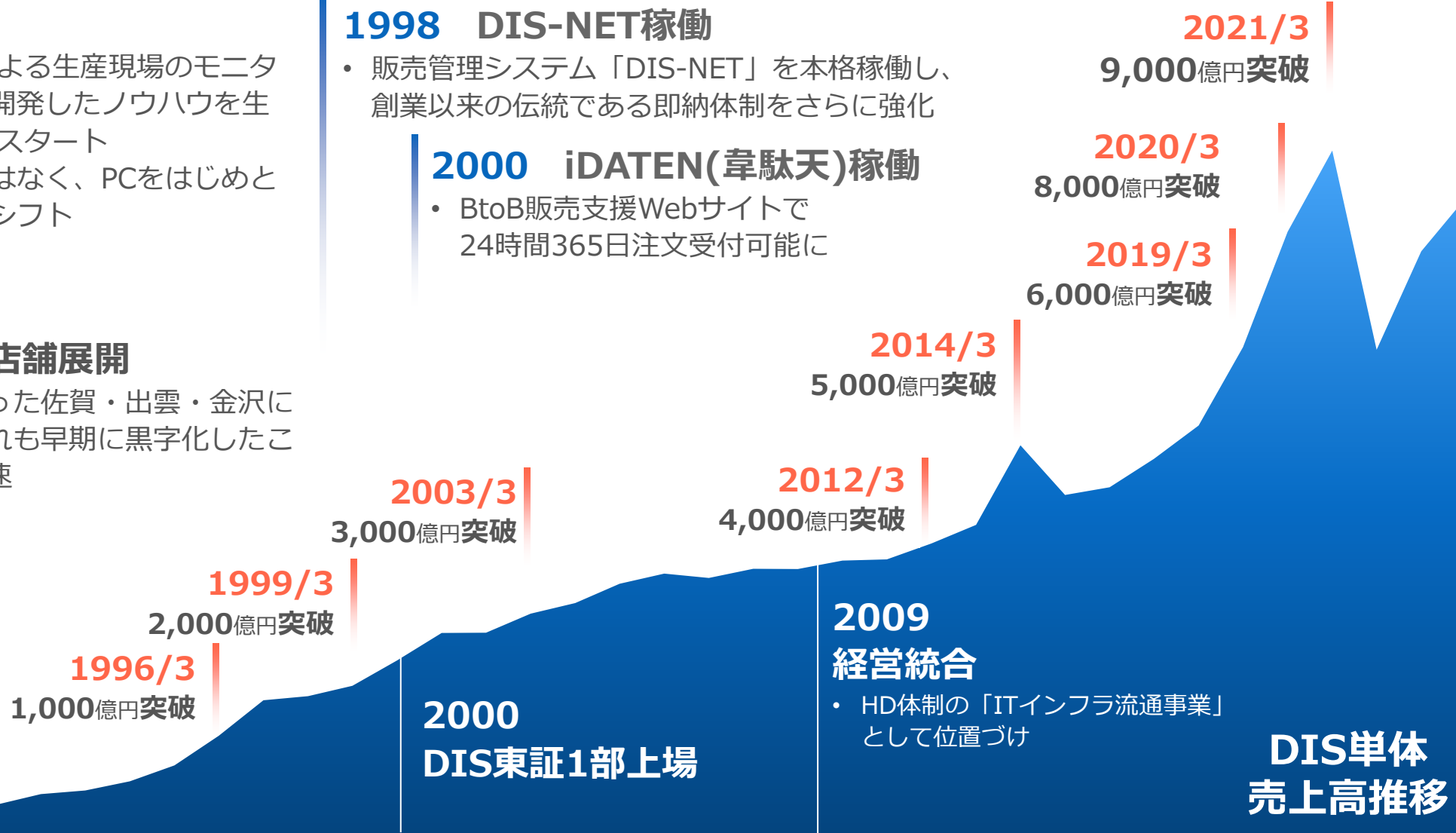
- 大和紡績の工場があった佐賀・出雲・金沢に支店を開設し、いずれも早期に黒字化したことで多店舗展開を加速

1998 DIS-NET稼働

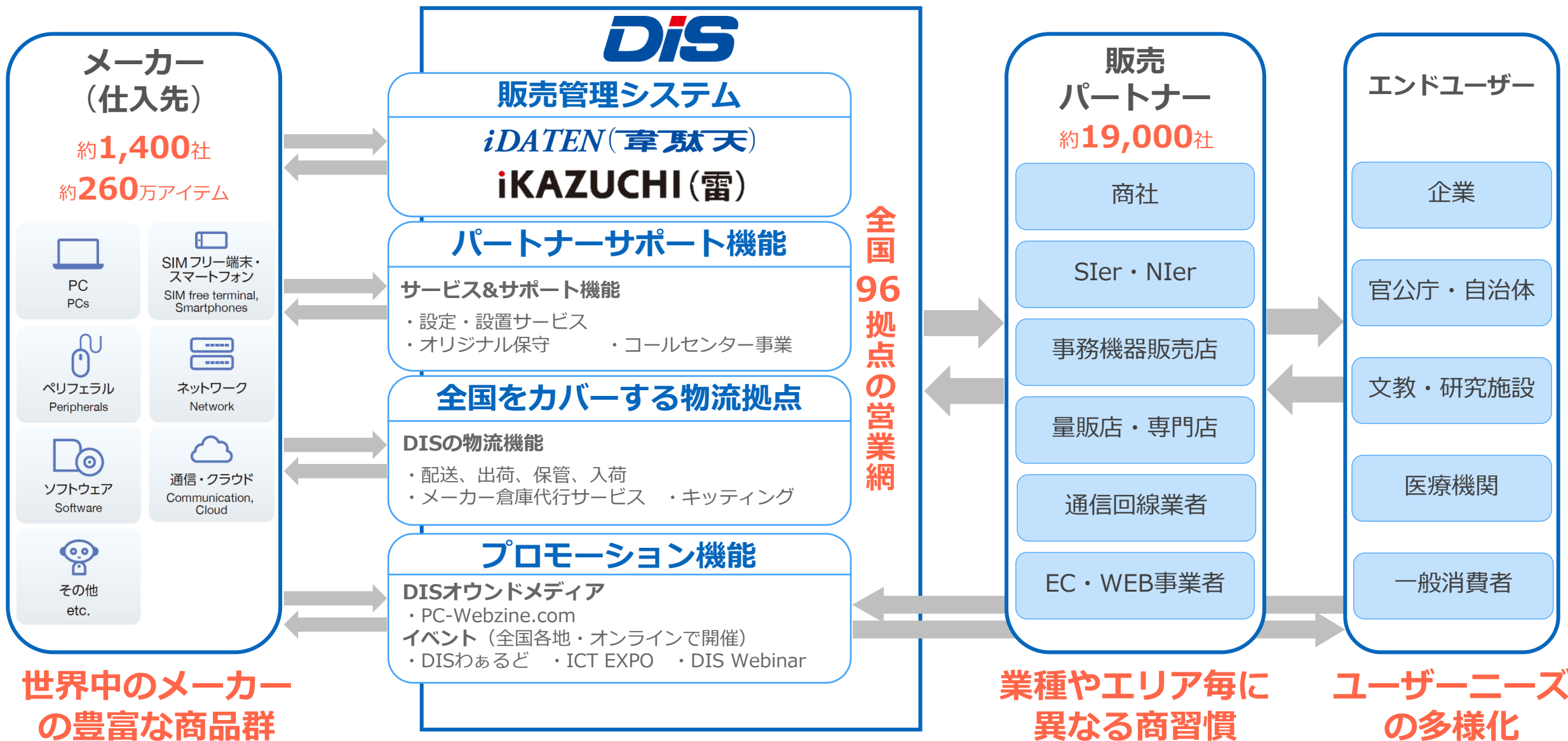
- 販売管理システム「DIS-NET」を本格稼働し、創業以来の伝統である即納体制をさらに強化

2000 iDATEN(韋駄天)稼働

- BtoB販売支援Webサイトで24時間365日注文受付可能に



ITインフラ流通事業の事業構造



ディストリビューターの役割と付加価値

メーカー (仕入先)

約1,400社 約260万アイテム

商品開発
営業・販促
受注・生産
在庫・出荷
請求・回収

**DISの営業網を活用し販路拡大・
販売業務効率化**

- 長年培ったサプライチェーンマネジメントにより**全国の需要量・ニーズ**を連携し、**メーカーの生産計画やプロモーション**に反映
- 物流センターをメーカーの倉庫機能として活用することで、**メーカーの時間・コスト節約**に加えて、**キittingや他社製品と組み合わせた出荷を実現**
- 海外から日本市場に新規参入するメーカーと協業し**国内を網羅した販売網・配送網**を提供

一本化
協業
代行

DIS
の役割

一本化
協業
代行

全国96拠点
の営業網

物流センター

商品選定・
提案

市場ニーズ
の把握

キitting

保守サポート

選定	設定
提案	納品
見積	支払
発注	顧客対応

販売パートナー

約19,000社

**DISの機能を有効に活用することで
自社の得意なビジネス領域に注力**

- 様々なメーカーの商品・情報を取り揃え、**最適な組み合わせで提案・提供**
- 豊富な在庫から販売パートナーに代わって**全国のエンドユーザーにスピーディに納品**
- 出荷前のキittingや運用、保守、延長保証等の**技術サービスをワンストップで提供**
- 地域特性に応じたイベント開催・プロモーションなど**全国拠点を活用した需要創出**

iKAZUCHI(雷)ビジネスモデル

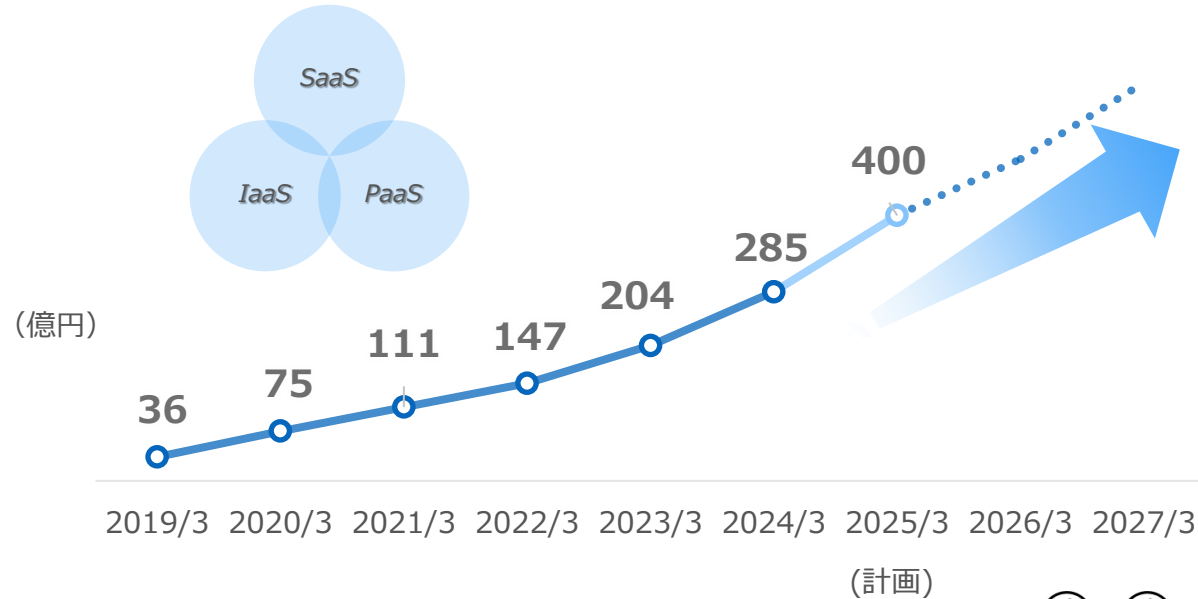


iKAZUCHI(雷)経由でのサブスク実績

iKAZUCHI(雷)取扱高

サブスクリプション管理ポータル「iKAZUCHI(雷)」
を通じた販売パートナーへの販売総額

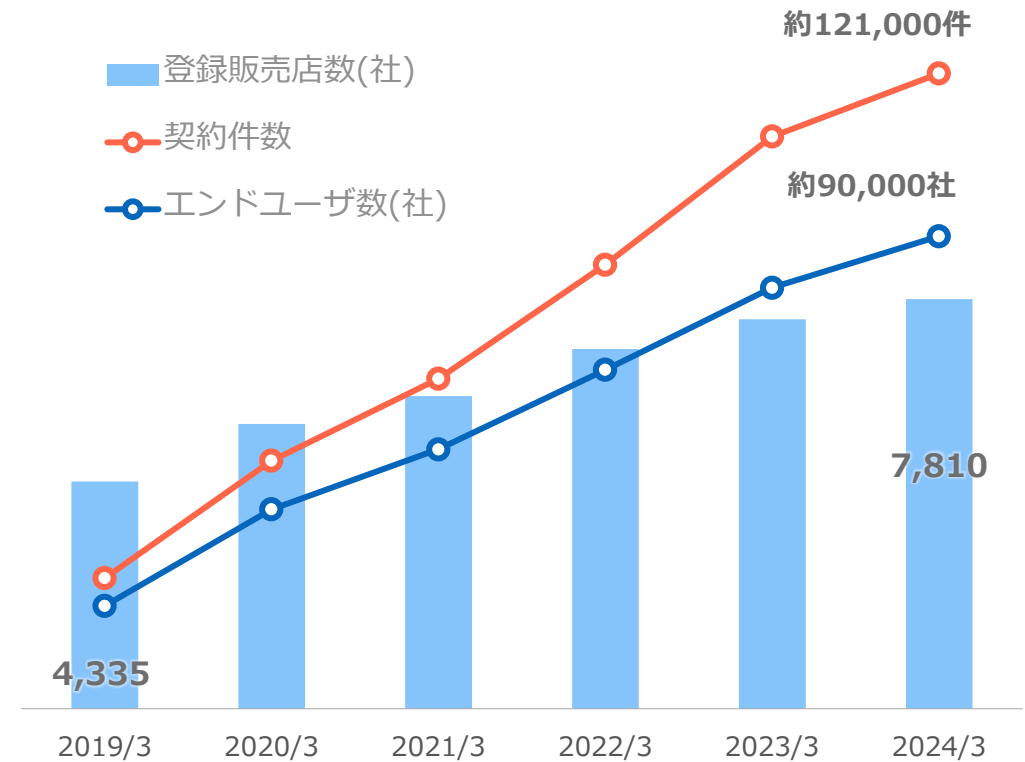
2024/3～2027/3 **CAGR30%以上**の成長を目指す



サブスクリプションビジネスの
市場を拡大し継続収益の「地盤」を強化



登録販売店数の推移



対応ベンダー数

24社 38社 65社 88社 115社 130社
(2024/3)

物流センター効率化

関西センター（神戸市）



2020年5月本格稼働

倉庫面積：36,342㎡

関東中央センター（埼玉県吉見町）



2016年6月本格稼働

倉庫面積：44,753㎡

ロボットストレージシステム

→作業効率・スペース最適化

【ロボット稼働台数】

関東中央：45台、関西：30台

キittingセンター併設

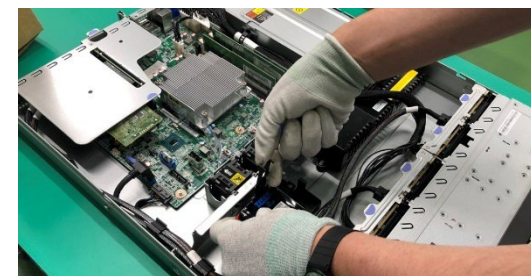
→入荷＞作業＞出荷に迅速対応

PC・タブレット
キitting実績

：年間18.8万台
(2024/3期)

トラック予約受付システム

→入出荷情報の共有・車両平準化



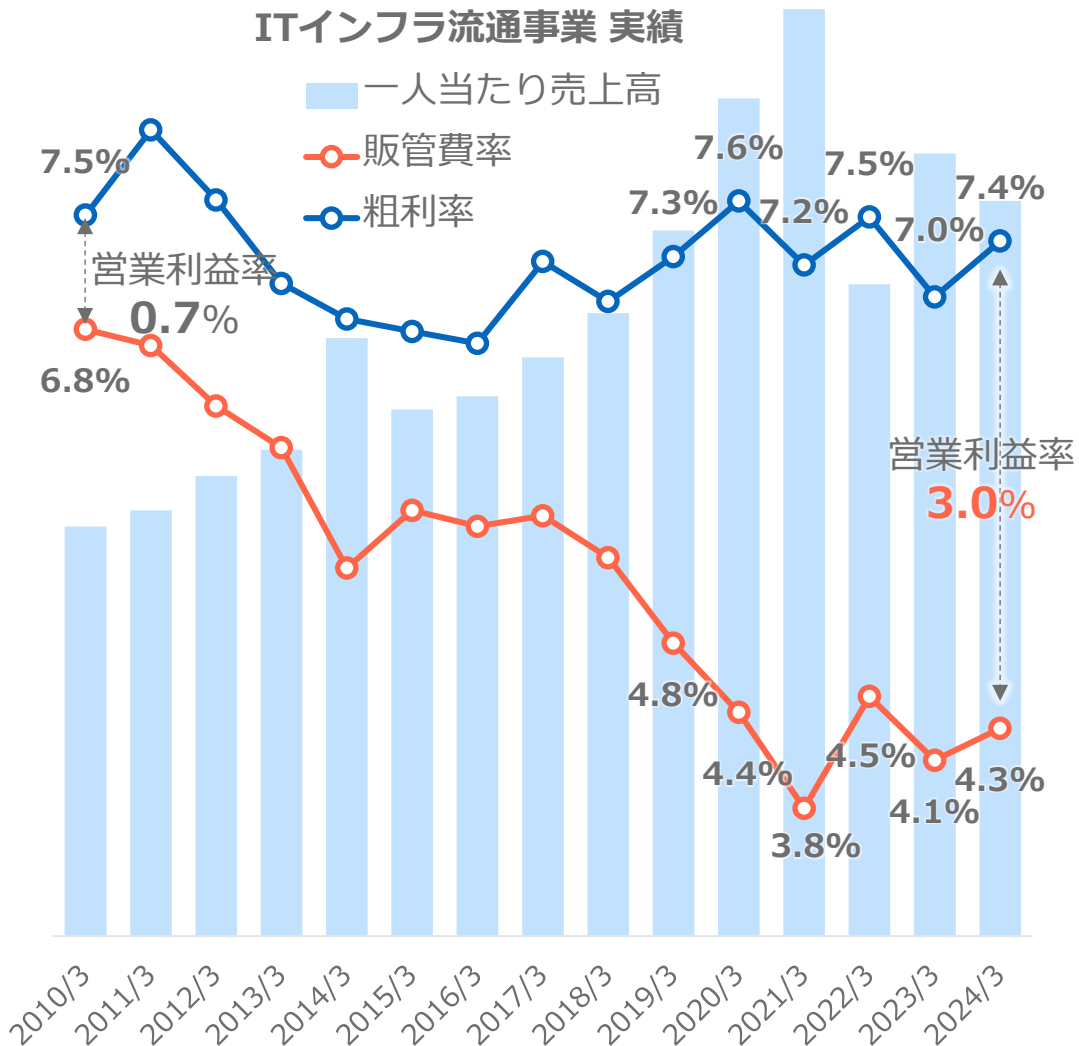
東西メガセンターを中心に
効率化・生産性向上に注力

ITインフラ流通事業 実績

■ 一人当たり売上高

○ 販管費率

○ 粗利率

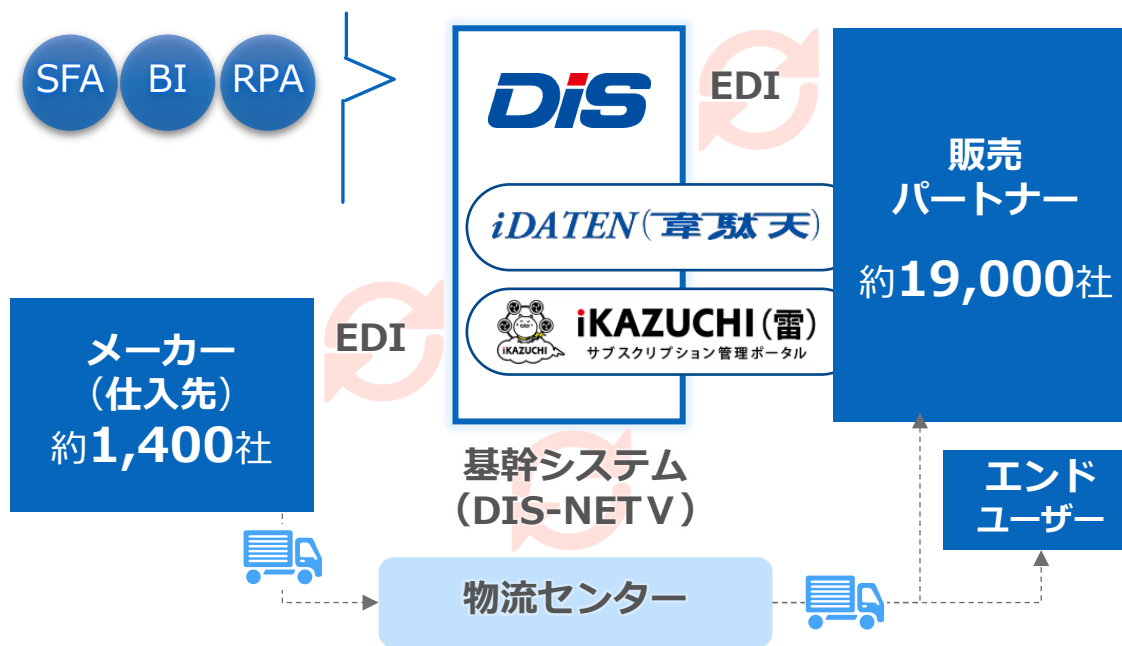


※連結調整を反映しておりませんのでセグメント実績とは異なります

1兆円を超える売上高を支えるシステム基盤の強化

3カ年で以下の機能強化を実施

- 性能向上のため機器スペック増強、可用性改善
- 既存システムの移行、非互換プログラムの改修を含むマイグレーション
- 災害・障害・セキュリティ対策と運用管理改善・可用性向上
- 社内システム連携強化、自動化
- iDATEN(韋駄天)、iKAZUCHI(雷)、EDIなどの機能強化



立旋盤



- 中・大型で**国内シェアNo.1**（累計出荷台数**7,600**台超）
- 「立旋盤のオーエム」として国内外で高い評価を獲得
- 工作物を水平方向に回転するテーブルに取り付けて切削する機械で、テーブル径は800～6,000mmと幅広く多様な生産形態に対応し、高剛性・高精度で操作性に優れ、航空機エンジン、風力発電の部品をはじめ、あらゆる分野のマザーマシンとして活躍
- 左の写真は小型汎用機「RT-915」

車輪旋盤



- 鉄道車両のメンテナンスに使われる専用工作機械で鉄道の安全と乗り心地の向上に寄与
- 床下車輪旋盤で**国内シェアNo.1**
- 世界初の車輪旋盤を製作し全世界向けに多くの納入実績のあるドイツのヘーゲンシャイト社より技術供与を受けて国産化、設計・部品・ソフトウェアはすべてオリジナル製作

自動機械



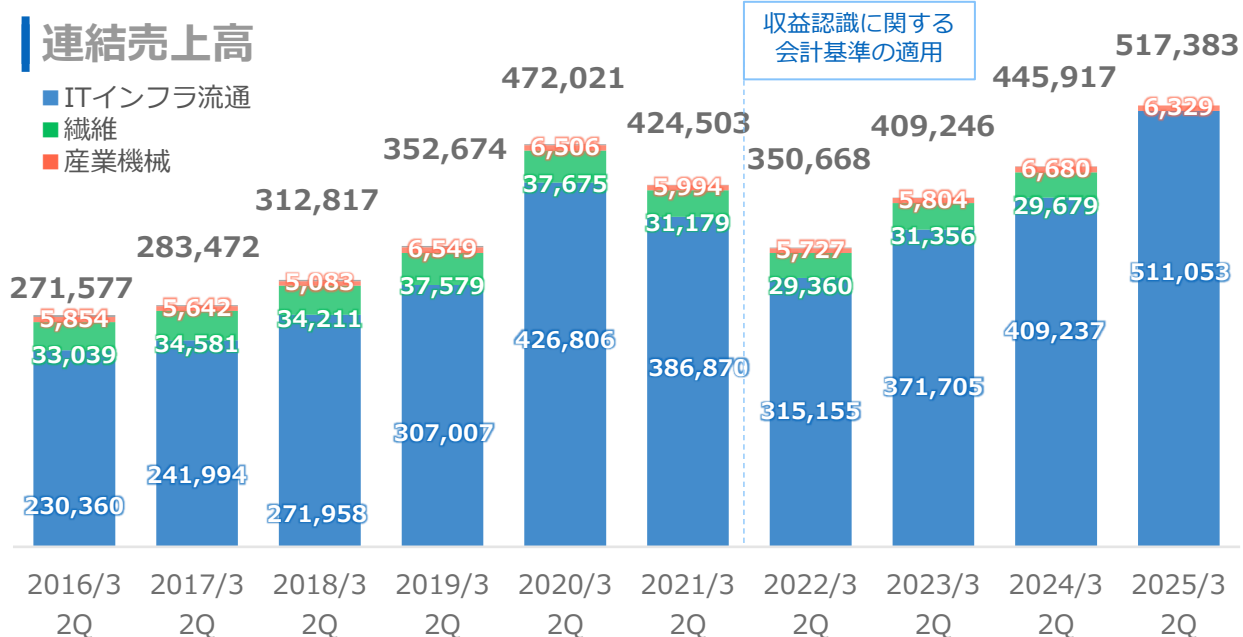
- カートナー（小箱詰機）や、個包装された商品を集積してフィルムで包む中間包装機、段ボールケーサーなど幅広い自動機械を製作（左の写真は横型連続カートナー）
- ライフサイクルが短く多様化が顕著な食品や、製造基準の厳格化が進む医薬品など、変化の激しい分野の包装工程のニーズに柔軟に対応できる技術と発想力が強み

参考資料

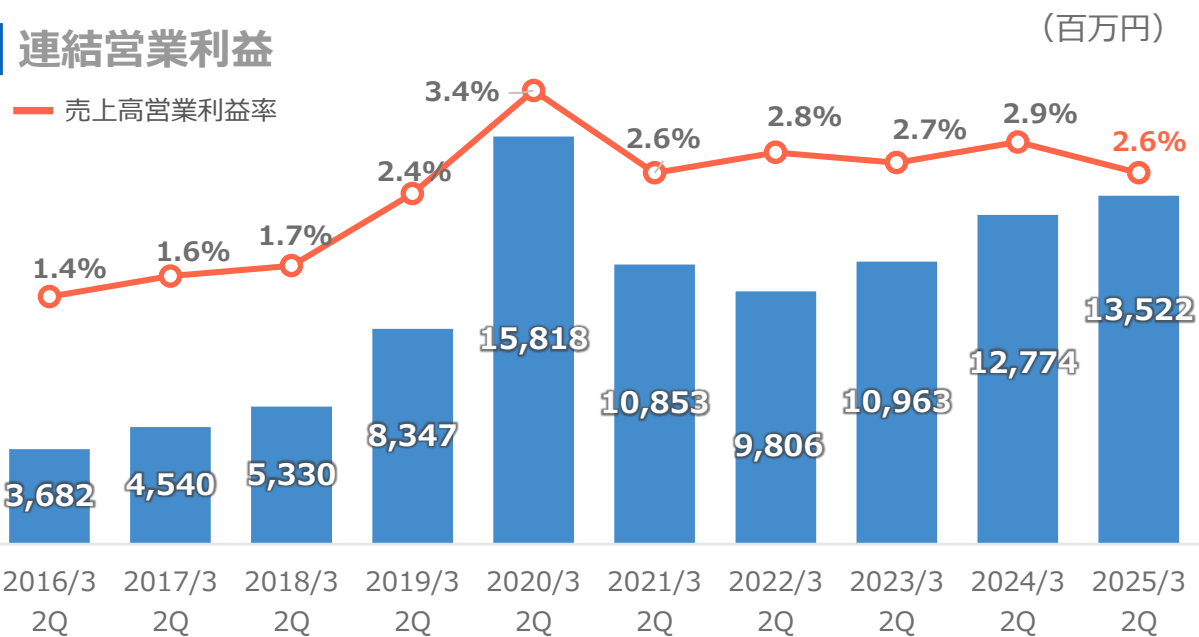
- ▶ 前期（2024年3月期）決算の遡及修正について
- ▶ 中期経営計画の概要（2025/3～2027/3）
- ▶ ITインフラ流通事業の「取扱高」について
- ▶ 事業概要
- ▶ 業績推移グラフ

連結業績推移（2Q累計期間）

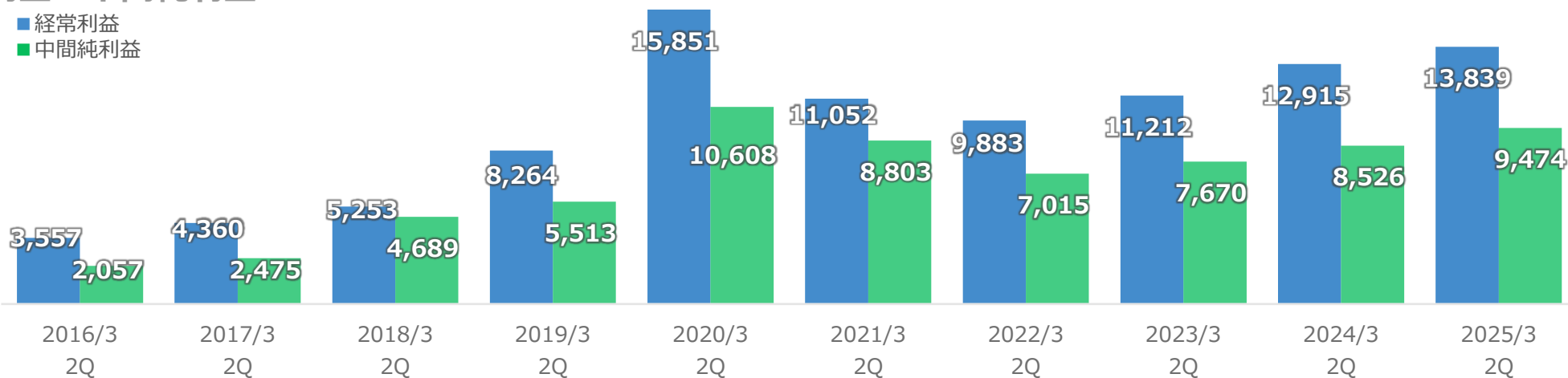
連結売上高



連結営業利益

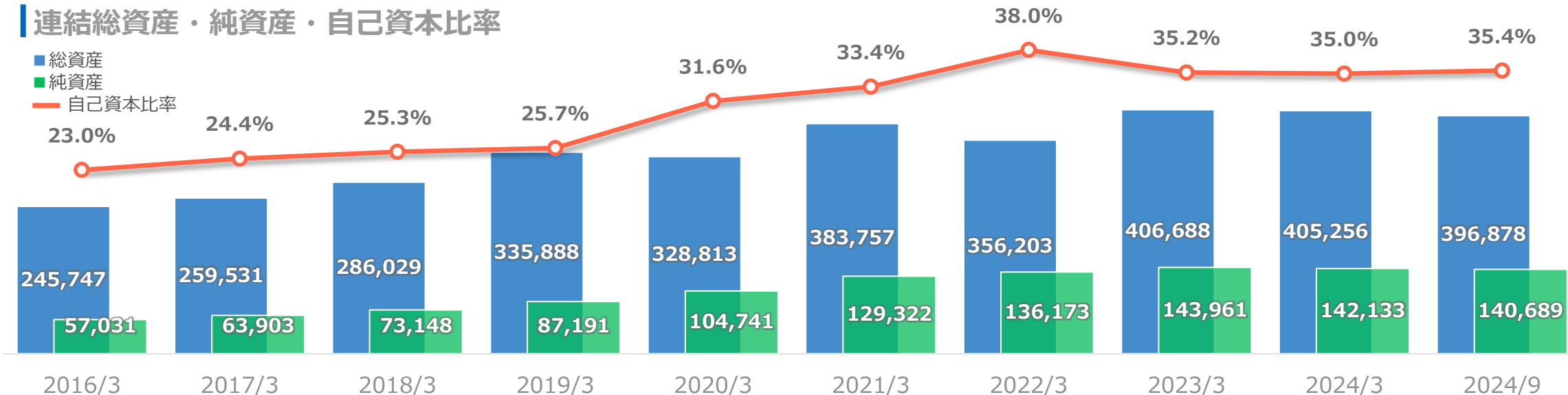


連結経常利益・中間純利益

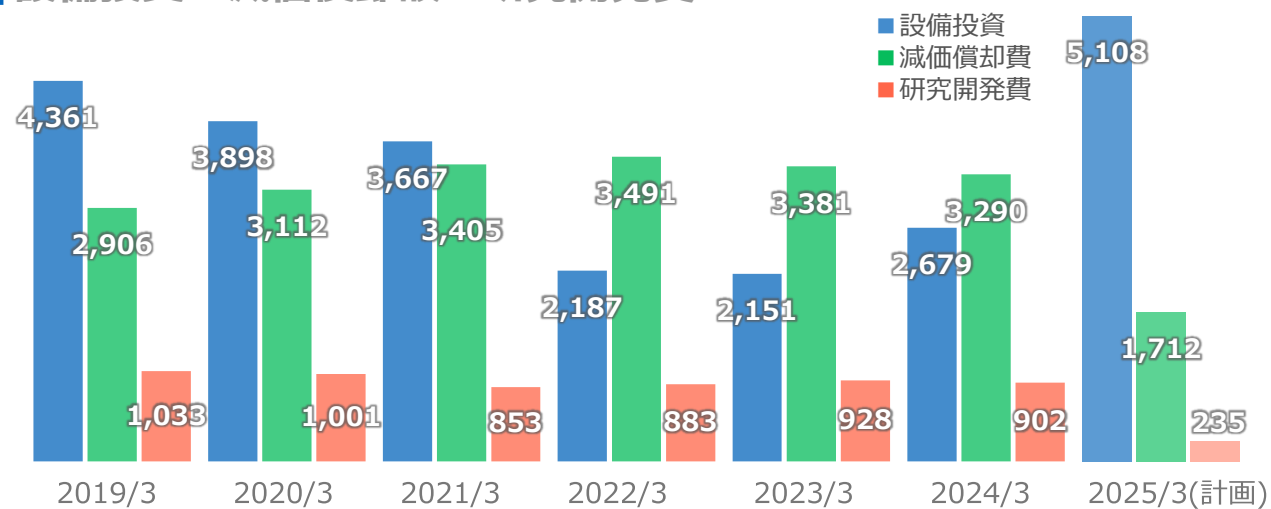


連結業績推移（2Q累計期間）

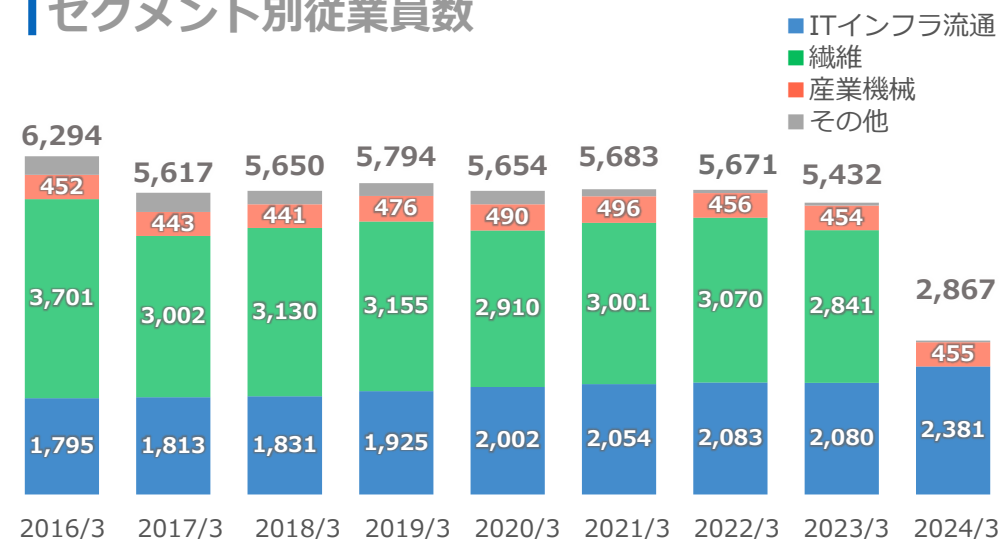
連結総資産・純資産・自己資本比率



設備投資・減価償却額・研究開発費

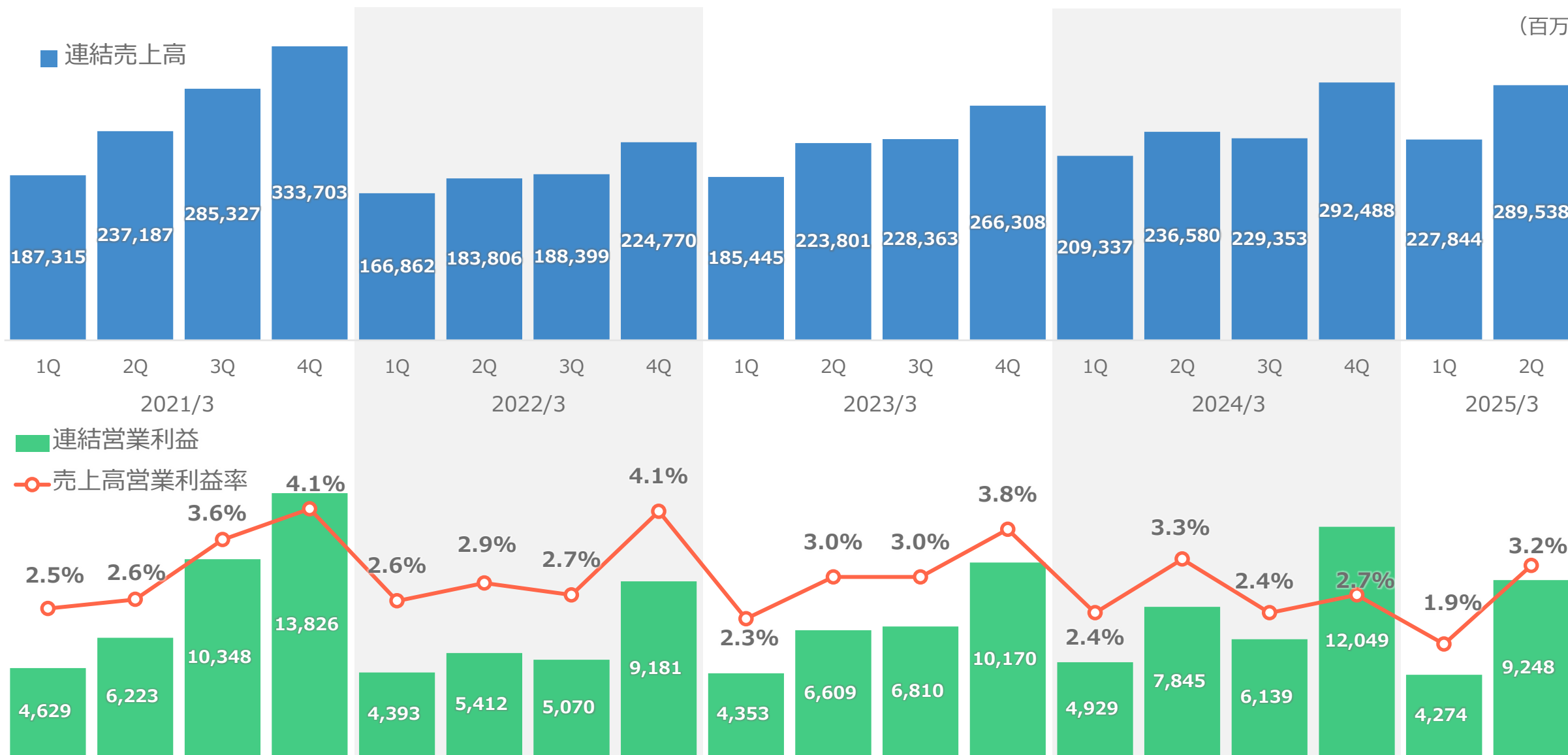


セグメント別従業員数



四半期別業績 推移

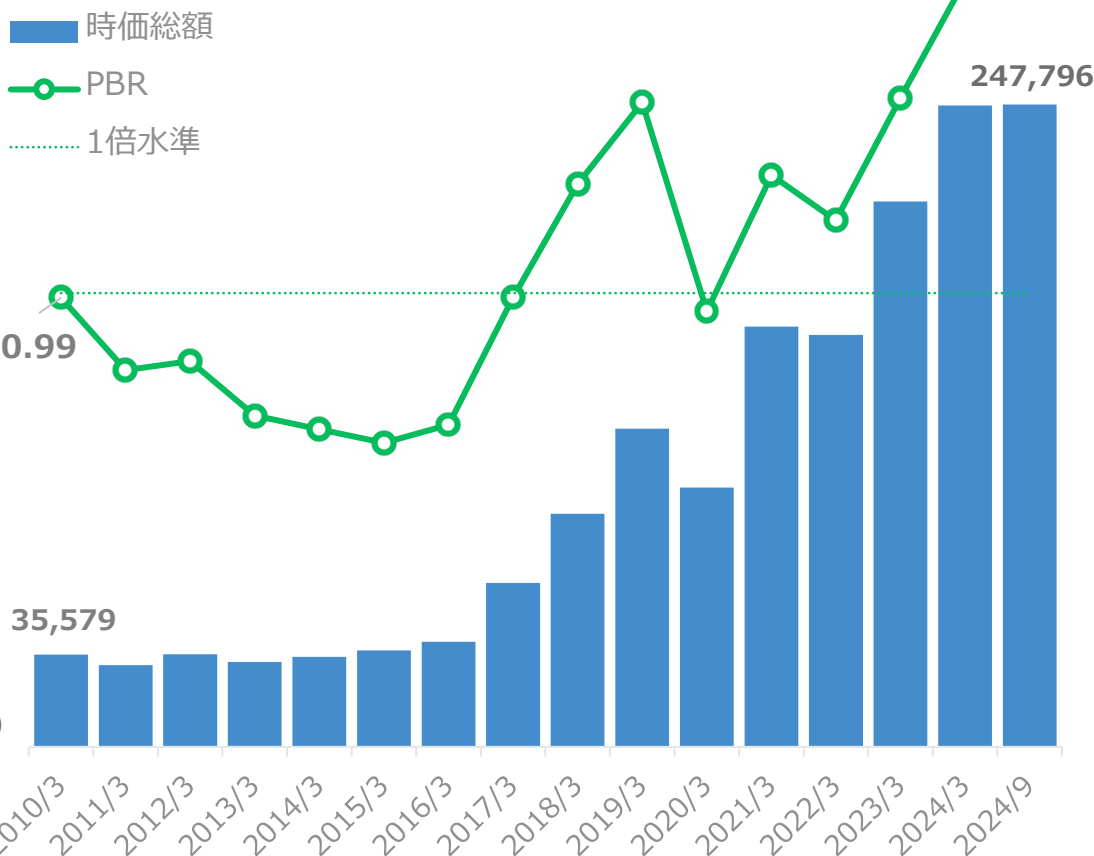
(百万円)



PBR 1.78倍

時価総額 247,796百万円

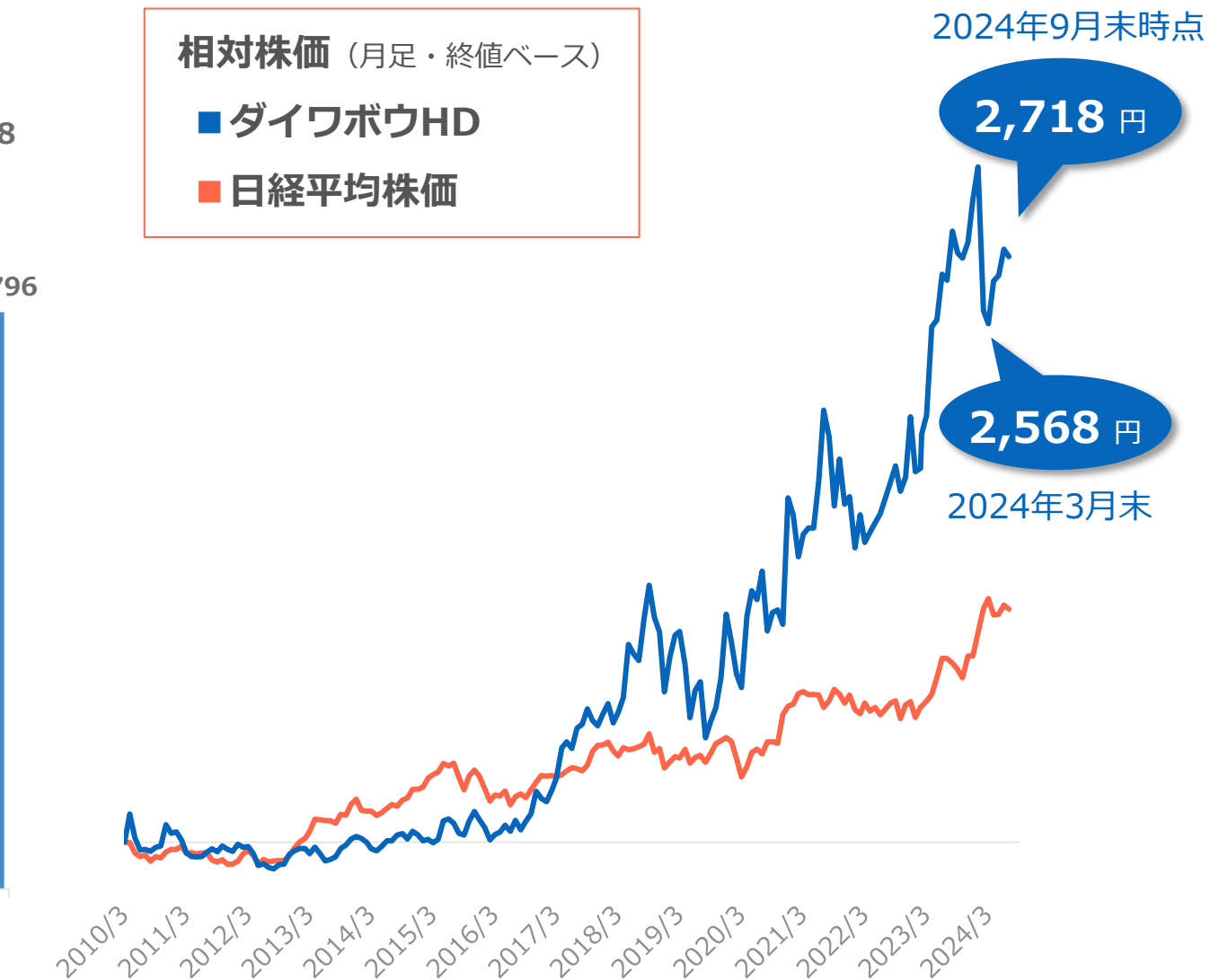
※2024/9終値ベース



相対株価 (月足・終値ベース)

■ ダイワボウHD

■ 日経平均株価



※当社株価は株式併合（2017/10/1）・株式分割（2021/4/1）を過年度に遡及して表示

ダイワボウホールディングス株式会社 会社概要



本社所在地	〒530-0005 大阪市北区中之島3丁目2番4号 中之島フェスティバルタワー・ウエスト		
設立日	大和紡績として創立	1941年4月1日	
	ダイワボウホールディングス設立	2009年7月1日	
連結従業員数	2,867名（2024年3月末現在）		
資本金	216億9,674万4,900円		
株式	東証プライム市場 証券コード 3107 / 業種： 卸売業 <JPX日経インデックス400構成銘柄>		
事業内容	ITインフラ流通事業		コンピュータ・周辺機器・ソフトウェアの販売 および物流サービス業
	[中核会社]	 ダイワボウ情報システム株式会社	コンピュータ機器等の導入・保守・修理サービス業
事業内容	産業機械事業		工作機械、自動機械および鋳物製品の製造販売業
	[中核会社]	 株式会社 オーエム製作所	

※大和紡績株式会社は2024 年 3月27日に独立いたしました。
(発行済株式の85%を株式会社アスパラントグループ へ譲渡)



ダイワボウホールディングス株式会社

<https://www.daiwabo-holdings.com/>



ニュース

<https://www.daiwabo-holdings.com/ja/news.html>

ダイワボウグループ一覧

<https://www.daiwabo-holdings.com/ja/group.html>

沿革

<https://www.daiwabo-holdings.com/ja/company/history.html>

【免責事項】

本資料に記載された業績予想値等の将来に関する記述は、現在入手可能な情報をもとに、当社が現時点で合理的であると判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、その正確性を保証するものではありません。実際の業績は、今後さまざまな要因により本資料の内容と異なる可能性のあることをご承知おきください。なお、当社は理由の如何にかかわらず、本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても責任を負うものではありません。

※本資料中に記載されている会社名、製品名等は、各社の登録商標または商標です。